令和7（2025）年度

三重大学教育学部
地域連携活動報告書

一身田・橋北校区連携校園

附属学校園との連携活動

三重大学教育学部
地域連携推進委員会

令和７（2025）年度 地域連携活動報告書 目次

はじめに

第1部 連携活動

一身田・橋北校区連携活動について
活動一覧

附属学校園連携活動について
活動一覧

Ⅰ 活動報告
1. 理科教育
2. 情報教育
3. 家政教育
4. 英語教育
5. 幼児教育
6. 西が丘小学校
7. 附属中学校

第2部 学生の声

Ⅰ 連携活動に参加して

Ⅱ 学生アンケート結果

第3部 津市の先生たちと76期生が語る会

はじめに

本年度も地域連携活動について，多くのみなさまからご指導・ご支援を頂きましたことに，心より感謝申し上げます。

三重大学教育学部と一身田・橋北校区連携校園，津市教育委員会ならびに学部附属学校園との連携活動の成果を，この地域連携活動報告書という形で発刊いたしました。

令和7年度における連携活動は，一身田・橋北校区連携校園においては授業数 38，参加学生数はのべ 1,148 名，附属学校園においては授業数 42，参加学生数はのべ 515 名となりました。この場を借りて，さまざまな連携活動に取り組んでいただきました一身田・橋北校区の小・中学校と幼稚園，津市教育員会，附属学校園および教育学部のみなさまに厚く御礼申し上げます。なお，地域連携活動報告書は教育学部ウェブサイト，「教育」のページにて公開させていただいております。この連携活動の内容を，一人でも多くのみなさま方にご覧いただければ幸いに存じます。

三重大学に隣接する一身田・橋北校区の学校園と教育学部との連携協力は，平成 18 年（2006 年）に始まり今年度は 20 年目という節目の年でもありました。同様に附属学校園についても平成 17 年ころから始まり，密な連携活動を続けております。このような長期にわたる連携活動の意義や必要性を改めて認識いたしております。

三重大学教育学部における教育内容の特色の一つとして，「教育実践力を高めるカリキュラム」構成があり，この理念を育成する場として位置づけられている連携活動は，学生にとって貴重な経験であり，大きな意義を持っています。今年度から体験学修などの活動も始まり，学生が学校現場に行く機会がますます増えております。しかし，連携活動は学生の専門とする教科での取り組みができることから，学生の学びの場として大いに役立っていると考えられます。

最後になりましたが，教育学部学務の地域連携活動担当の山田志穂さんには，今年度も，連携校園との連携活動に関わる連絡調整や取りまとめをはじめ，地域連携フォーラムでの事務作業，本報告書の作成等にあたり，多大なる仕事をこなしていただきました。御礼申し上げます。

連携活動のさらなら発展に向けて，今後とも，みなさま方からご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

三重大学教育学部地域連携推進委員会
委員長 平島 円

第1部
連携活動

令和７（2025）年度　一身田・橋北校区連携活動一覧

依頼No.	コース	担当大学教員	連携校園名 担当教員	教科・活動名 学年・クラス	内容	実施日，関連授業，学生参加人数
1	保健体育	加納岳拓	南立誠幼稚園 西口　かおり	3.4.5歳児12名	運動的な活動	10/28（金）教員1名学生5名参加
2	美術教育	上山　浩	南立誠幼稚園 西口　かおり	3.4.5歳児12名	絵画・制作活動	11/5・教職実践演習・8名
3	幼児教育	水津幸恵	南立誠幼稚園 村井　知枝美	未就園児	未就園児の会の企画・運営	年8回　（木曜日午前中）、教育実地研究、4年生6名が参加
4	家政教育	平島 円	栗真小学校 林　裕子	家庭6年 18人	ナップザック作りの補助	9月12日・19日・22日，教育実地研究，5人
5	音楽教育	上ノ坊　航也 森川　孝太朗	栗真小学校 林　裕子	音楽 4・5・6年	合奏・合唱の指導	上ノ坊(11月4日、11月11日、11月12日）森川（10/1（金）,10/31（金）,11/5（水）,11/10（月）,11/13（木））
6	家政教育	平島 円	栗真小学校 山本　顕也	家庭5年 13人	エプロン作りの補助	1月27日・2月10日，教育実地研究，5人
7	家政教育	平島 円	白塚小学校 木田先生	家庭科6年生2クラス	ナップサックづくり	6月17日・18日，教育実地研究，3人
8	美術教育	上山　浩	一身田小学校 河合　房子	図工5年生 2クラス	電動のこぎり指導支援	10/10・教職実践演習・8名
9	保健体育	水藤弘吏	一身田小学校 宮本　恵子 阿部　友美	体育科 1年生3クラス 5年生2クラス	水泳指導支援、授業補助	5年生のみ 6/17 学生3名参加，6/24 学生2名参加，6/26 1年生 教員1名および6/27 5年生 教員1名の参加は中止となった．
10	情報教育	山守一徳	一身田小学校 宮本　恵子	生活科 1年生3クラス	タブレットの使い方	11月19日1・2・3限目　学生0人
11	情報教育	山守一徳	一身田小学校 谷　辰則	総合 2年生2クラス	プログラミング体験 （スクラッチジュニア）	12月3日2・3限目　学生0人
12	情報教育	山守一徳	一身田小学校 若林　愛美	総合 3年生2クラス	プログラミング体験 （スクラッチジュニア）	7月2日2・3限目　学生0人
13	情報教育	山守一徳	一身田小学校 堀　陽介	総合 4年生2クラス	プログラミング体験	11月13日2・3限目　学生0人
14	家政教育	平島 円	一身田小学校 井上　仁美	家庭科 5年生2クラス	裁縫実習、調理実習の補助	9月9・11・16・18・30日，10月2日，2月5日・10日・12日・17日・19日・24日・26日（予定込み），教育実地研究，延べ30人
15	家政教育	平島 円	一身田小学校 岸本　美智子	家庭科 6年生3クラス	調理実習の補助	11月5日・6日・7日，教育実地研究，11人
16	社会科教育	宮岡邦任	一身田小学校 岸田　謙介	栗間小学校きらめきフェスティバル・全学年	SGDs活動の体験（環境に配慮したおもちゃ作り）のサポート	11月15日、学生8名参加
17	家政教育	平島 円	一身田小学校 井上　仁美	家庭 5年	5年：裁縫実習・調理実習参観	9月9日・11日・16日・18日・30日，キャリア教育入門，13人
18	理科教育	國仲寛人（講座代表）	北立誠小学校 岩脇、菊地、油田	理科5年生 3クラス	科学実験教室	2025/12/8、キャリア教育入門、1年生18名が参加
19	国語教育	守田 庸一	北立誠小学校 森	教職員	国語教育「国語の指導について」	7月3日（木）に実施。
20	国語教育	守田 庸一	北立誠小学校 森	教職員	国語教育「全体の研究授業について」	11月25日（火）に実施。
21	保健体育	冨樫健二	北立誠小学校 小掠	全学年	体力テストの補助	6/3（火）
22	英語教育	荒尾浩子	北立誠小学校	外国語科もしくは外国語活動	言語活動の実践	11月27日、外国語科（6年生）　参加学生14人
23	家政教育	平島 円	南立誠小学校 西本	生活2年生 3クラス	おいもパーティー	12月2日，4日，教育実地研究，7人
24	保健体育	水藤弘吏	南立誠小学校 小林	体育3年生 2クラス	プール指導・監視	6/17 学生 5名参加，6/20 学生2名参加，7/3 教員1名参加
25	保健体育	水藤弘吏	南立誠小学校 伊豆	体育4年生 2クラス	プール指導・監視	6/16 教員1名参加
26	家政教育	平島 円	南立誠小学校 松尾	家庭5年生 2クラス	エプロン制作	1月30日，2月17日，20日（予定込み），教育実地研究，5人
27	保健体育	水藤弘吏	南立誠小学校 加藤	体育5年生 2クラス	プール指導・監視	6/20 教員1名参加
28	家政教育	平島 円	西が丘小学校 竹内　由美子	家庭科6年生 4クラス	ミシン補助	9月3日・5日・12日，教育実地研究，延べ5人
29	家政教育	平島 円	西が丘小学校 竹内　友美	家庭科5年生 4クラス	ミシン補助（エプロン作り）	9月11日・18日・22日・25日，教育実地研究，延べ31人
30	保健体育	加納岳拓	西が丘小学校 横田　幸大	体育(国語) 2年生	他者との協調的スキルを育成するための授業づくり支援	1/20（火）2年生の授業研究に参加
31	理科教育	栗原行人	西が丘小学校 井ノ口絢子	理科 6年生4クラス	郷土の化石の観察	2025年12月16日、地学実験、3年生3名が参加
32	数学教育	田中伸明	一身田中学校 鈴木　美希	数学1～3年生 全14クラス	学習支援・授業補助（教職実践演習）	通年，教職実践演習・数学教育コース9名
33	音楽教育	上ノ坊　航也	一身田中学校 古市　和代	音楽3年生 5クラス	コーラスコンクールに向けて各学級の合唱指導	9月4,5,8,911,12,16,18,22,25,26,29,30日、10月9,16日、関連授業：教職実践演習、学生参加人数11人
34	保健体育	岡野　昇	一身田中学校 山口　秀人	保健体育2年生 5クラス	体つくりの授業支援（ラート）	9/5-9/25教員3名学生延べ49名参加
35	数学教育	田中伸明	橋北中学校 工藤　彩	数学 1・2・3年	学習支援・授業補助（教職実践演習）	通年，教職実践演習・数学教育コース9名
36	家政教育	平島 円	橋北中学校 世古口　結衣	家庭 1年	1年：裁縫実習補助	9月12日・19日・22日・30日・10月3日，教育実地研究，延べ10人
37	家政教育	平島 円	橋北中学校 世古口　結衣	家庭 1年	1年：裁縫実習参観	9月12日・19日・26日・10月6日，キャリア教育入門，13人
38	合同	守田 庸一	橋北中学校 奥田　幸伸	総合的な学習 2年5学級	三重大学教育学部・模擬授業体験	2月10日（火）9:30-12:00に実施。2年5学級の生徒が来訪し、学部長の講話、学部教員9名の授業、学生による大学案内を行なった。学生30名（学部生27名、大学院生3名）が参加。

令和7（2025）年度　津市内協定校連携活動一覧

No.	コース	担当 大学教員	連携校園名 担当教員	教科・活動名 学年・クラス	内容	実施日，関連授業・学生参加人数
1	家政教育	村田晋太朗	芸濃中学校	家庭科・中学校2年生 3クラス	お茶を題材にした授業実践	2025年12月1日、12月4日、12月11日、12月15日 卒業研究，共創査察演習 参加学生4名

令和7（2025）年度　附属学校園連携活動一覧

※「領域No.」はA型「学部教員による授業」・B型「教材の共同開発、学部教員による研究支援」・C型「学部教員からの提案・希望による連携」・D型「上記以外の内容・形態」となる。

依頼No.	領域No.	コース	担当大学教員	附属校園名 担当教員	教科・領域等	内容	実施日，関連授業，学生参加人数
1	D	家政教育	水津幸恵	附属幼稚園 杉澤　久美子	年長	カレーパーティーの支援を通した触れ合い	6月14日（土）・保育学概論・12名
2	D	家政教育	水津幸恵	附属幼稚園 杉澤　久美子	3・4・5歳児	餅つきの支援を通した触れ合い	12月12日（金）・保育学概論・12名
3	D	幼児教育	吉田真理子	附属幼稚園 杉澤　久美子	3・4・5歳児	学生による人形劇の上演	「表現ⅠA」「表現ⅠB」「表現ⅡB」、3年生11名、7月19日（土）、1月21日（水）
4	D	幼児教育	富田昌平	附属幼稚園 杉澤　久美子	未就園児	未就園児コアラの会の企画及び実施	「子どもの理解と援助」「子育て支援」，2年生11名，10月2日、10月16日、10月30日、11月13日、11月27日、12月18日、1月29日、2月5日
5	A	理科教育	伊藤信成	附属幼稚園 杉澤　久美子	年長児	星を見る会	7月19日（土）、6名参加（3年生3名、2年生3名）
6	B	技術・ものづくり	中西　康雅	附属幼稚園 杉澤　久美子	3・4・5歳児	木工でキーホルダー作り	10月22日（水）、関連授業：材料・加工学II、学生2名
7	A	保健体育	加納岳拓 岡野昇	附属幼稚園 辻　彰士	年中ほし組	年中ほし組の30組の親子を対象とした親子活動の企画と運営。保健体育コースの学生が中心となる。	10/29（水）に実施 9/2に打ち合わせ 10/20,10/28にリハーサル教員2名　学生10名参加
8	A	理科教育	平山大輔	附属幼稚園 辻　彰士	年中ほし組	園庭の草や木の実に触れる活動の実施。	１０月２２日に実施。
9	A	幼児教育	富田昌平	附属幼稚園 辻　彰士	行事 よるのようちえん	よるのようちえんで3つのブースを担当し、企画と運営をする。幼児教育コースの1年生が中心となる。	「キャリア教育入門」，1年生11名，7月19日（土）
10	B	音楽教育	森川孝太朗	附属幼稚園 早川ひろみ	体操音楽	80周年記念体操の音楽作成	5/7（水）,6/4（水）,6/13（金）,8/8（金）,8/26（火）,10/13（月）,11/20（木）
11	B	幼児教育	水津幸恵	附属幼稚園 奥村　彩優子	年少	3歳児親子活動	「幼児教育学」，3年生11名，6月5日（木）
12	B	美術教育	上山　浩	附属幼稚園 奥村　彩優子	年少	粘土活動（幼児の活き活きとした表現ややってみたいを引き出す、活動・教材を考える）	2/17実施・関連授業なし・1名
13	A	国語教育	林朝子	附属幼稚園 湯田　綾乃	年長	毛筆を使い、絵や字をかく活動	１月２７日（火）実施、国語教育コース3年５名、４年４名が参加。
14	A	理科教育	國仲寛人	附属幼稚園 湯田　綾乃	年長	幼児の生活・遊びにつながるような科学実験、体験 （年長児の様子(子22名×親22名)を対象として活動）	１０月２０日に実施。
15	A	国語教育	服部明子	附属小学校 井上大	外国語・総合5年生	台湾について知ろう	6月24日（火）6限目実施、小学校5年生全員参加。
16	B	家政教育	村田晋太朗	附属小学校 堀切紋子	家庭科	研究授業に向けて、授業者が考えた内容についてのアドバイス、参考資料の提供など	2025年4月14日(月)・6月2日(月)7月4日(金)11月17日(月)、12月12日(月)研究打ち合わせ 6月19日(木)授業参観 11月29日(土)公開研助言：教職実践演習4年生１２名 2026年1月28日(水)校内授業研究参観
17	B	国語教育	守田 庸一	附属小学校	国語科	主体的・対話的で深い学びを実現する国語授業の共同開発	1・2・3学期の研究授業を学部教員（守田）が参観するとともに、事前・事後の検討会を開催（3学期は事後の会のみ）。また、夏休みに国語科の研究会を開催（1回）。2学期（公開研究会）の研究授業と協議会には国語教育コース1年生20名のほか、同コースの他学年の学生も参加。
18	C	理科教育	伊藤信成	附属小学校 岡賢一	理科５年生	5年生のキャンプでの天体観測	望遠鏡での観察と星空観測　10/21、参加学生４名（3年生１名、2年生3名）
19	B	保健体育	岡野　昇 加納 岳拓	附属小学校	体育科	主体的・対話的で深い学びを実現する体育授業の共同開発	7/2,11/29,2/4の授業研究に参加。教員2名
20	C	数学教育	玉城・田中	附属小学校 岡賢一・楠田達也	5年B組・6年C組　算数	学生による算数授業学習支援・授業補助（キャリア教育入門）	6月18日(水)4限目、キャリア教育入門、数学教育コース1年生21名
21	B	保健体育	川戸　湧也	附属中学校 鈴木　将弘	保健体育	柔道着を使用しない、柔道の授業について	実施日：5月23日（金），6月25日（水），10月17日（金），11月4日（火），11月5日（水） 授業設計の背景ならびに各教材の実施方法，ポイントなどについて助言を実施した.
22	B	保健体育	岡野　昇 加納 岳拓	附属中学校 保健体育科	保健体育	公開研究会に向けた授業内容の助言と公開日当日の助言者	11/9に教員2名学生8名が参加
23	D	美術教育	上山　浩	附属中学校 市川　雅章	美術部	三重大学教育学部美術科体験講座	7/25・美術科教育法Ⅱ・5名
24	A	美術教育	上山　浩	附属中学校 市川　雅章	美術部	3DCG	7/27-28・関連授業なし・学生は参加せず
25	C	美術教育	上山　浩	附属中学校 市川　雅章	美術科	大学において、教員養成課程の学生に向けた講義	後期
26	B	美術教育	上山　浩	附属中学校 市川　雅章	美術科	教材開発における指導助言及び、公開研究会に向けた授業内容の助言と公開日当日の助言者	通年
27	B	音楽教育	森川　孝太郎	附属中学校 西本　彩	音楽科	公開研究会に向けた授業内容の助言と公開日当日の助言者	11/10（月）,11/29（土）
28	B	音楽教育	上ノ坊　航也	附属中学校 西本　彩	音楽科　全学年	附中のハーモニーでのコンクール審査及び講評など	11月13日（木）、対象者：附属中学校1，2，3年生全員
29	B	音楽教育	上ノ坊　航也	附属中学校 西本　彩	音楽科	男声パートの歌唱指導	9月29日(水)、10月2日(木)、10月10日(金)、対象者：附属中学校3年生全員
30	A	技術・ものづくり	中西　康雅	附属中学校 山城　卓	技術３年	教職実践演習	12月2日(火) 及び3日(水)、関連授業：教職実践演習、学生11名
31	A	国語教育	国語講座教員	附属中学校 国語科	全学年	各専門領域の授業	3月5日（木）1～4限目に実施予定。1年生全クラス対象に教職大学院1年生1名と守田が授業を行う。
32	B	家政教育	村田晋太朗 谷口あや	附属中学校	教職員	本校研究への指導助言	2025年4月12(金)、10月15日(水)、10月22日(水)に実施。 2025年7月3日(木)プレ公開研究会。
33	B	家政教育	村田晋太朗 谷口あや	附属中学校	全学年	総合的な学習の時間における、探究活動への指導助言	2025年12月12日(金)、2026年2月9日(月)に実施。
34	A・C	数学教育	玉城・川向・森山・田中	附属中学校 加藤　隆彦	1年生 数学	大学教員の各専門領域の出前授業と学生による生徒学習支援・授業補助	2月12日(木)4限目、キャリア教育入門、数学教育コース1年生21名
35	B	家政教育	村田晋太朗	附属中学校 林　歌織	家庭科	公開研究会に向けた授業内容の助言と公開日当日の助言者	2025年4月14日(月)、7月3日(木)、9月24日(水)、10月6日(月)研究地合わせ 11月9日(日)公開研助言：教職実践演習4年生１２名
36	B	家政教育	村田晋太朗	附属中学校 林　歌織	家庭科	教材開発における指導助言	2025年10月15(水)、27日(月)教材開発打ち合わせ 2025年7月14(月)、15日(火)附属中3年生授業実践参観
37	A	社会科教育	藤田達生 大坪慶之	附属中学校 加藤幸純	中学1年生4クラス	「郷土の研究」に向けた研究入門	７月７日(月)-７月８日(火)実施、学生参加人数0人
38	D	附属学校企画経営室	村田晋太朗	附属中学校 第2学年	総合的な学習の時間	附属中学校２年生校外学習での大学訪問	2025年12月5日(金)附属中学校２年生が校外学習で大学を訪問し、大学の施設見学、大学教員の授業体験を行なった。施設見学の際には、家政教育コース4年生9名が引率を行なった。
39	A	幼児教育	富田昌平	附属特別支援学校 下地栄津子	生活単元学習 小学部全体	手遊び、絵本の読み聞かせ	「教職実践演習」，4年生11名，12月17日（水）
40	A	保健体育	冨樫健二	附属特別支援学校 伊藤彩乃　今村真也	体育 中学部全体	中学部生徒に対するラケットスポーツの指導	1/23(金)に実施した
41	A	技術・ものづくり	中西　康雅	附属特別支援学校 西川一輝　今村真也	技術 中学部全体	卒業制作	2月4日（水）、関連授業：材料・加工学II、学生4名
42	A	国語教育	林朝子	附属特別支援学校 山原幸浩	国語 高等部2年生	書道体験	１月３０日（金）実施、国語教育コース4年生５名が参加。

Ⅰ　活動報告

１．理科教育講座

1.　西が丘小学校における「郷土の化石の観察」
2.　理科教育コース１年生による北立誠小学校での出前科学教室

１．西が丘小学校における「郷土の化石の観察」

（栗原行人）

【目的】小学校６年理科「土地のつくりと変化」の単元の中で，郷土の化石を知ることを目的として津市西部に分布する一志層群から産出した貝化石を含む岩石（泥岩コンクリーション）を観察した。

【概要と成果】2025 年 12 月 16 日に西が丘小学校６年生４クラスを対象として化石観察の授業を行った。まず，津市白山町で採取した 1800～1700 万年前の一志層群産の貝化石を含む岩石を班ごとに観察し，気がついたことをワークシートに記入し発表してもらった。その後，化石がどのような場所で見つかるか，どうして海からはなれたところから貝の化石が見つかるのかを説明した。最後に感想をワークシートに記入してもらったところ，「初めて生で化石を見れてよかった」とか「化石が入っている石は丸い石なのが特徴だとわかった」や「博物館に行って，もっとたくさんの化石を見てみたいと思った」といったコメントが得られた。

授業実施については，最初のクラスを栗原が担当し，その後の３クラスを栗原研究室の３年生３名が担当した。化石観察の時間では全員でどのような点に着目したらよいかを指導した。学生が教育実習以外に現場で授業をする機会はほとんどないので，教育実習で得た経験を活かす良い機会となった。

【学生の感想】学生 1（CS）　化石の観察を通して地層のでき方や身近な地域に見られる地層について紹介した。実物の化石に触れる活動を通し，児童は過去の環境に強い関心を示し，積極的に発言や質問をしていた。また地域と結び付けた説明により，学習内容を自分事として捉える姿が見られ，理科への興味を深める有意義な授業であった。

学生 2（TN）　大学で学んだ知識を，小学校の場でどのように教えるか不安もありましたが，地元の化石に対して，子どもたちが関心を持つ姿を見て，地域教材の持つ力を肌で感じることができました。特に，暮らしている地域から，約 1800 万年前の環境が推測できるということに驚く子どもたちの表情が印象的でした。教育実習とは異なる「出前授業」という形を通じて，いかに分かりやすく，かつ興味を引き出す形で伝えるかという教材提示の重要性を確認できました。

２．理科教育コース１年生による北立誠小学校での出前科学教室

（理科教育講座全教員）

【目的】

理科教育コース１年生が小学生を対象とした科学啓発活動（科学教室）を企画・実践し，児童との関わりを通じて科学の面白さを伝える能力を養うことを目的とし，「キャリア教育入門」のなかで北立誠小学校への出前科学教室を開催した。

【概要と成果，課題】

対象は北立誠小学校５年生（全クラス）とし，事前の準備も含め，以下の日程で実施した。

- 7 月 29 日：理科１年生へのガイダンス
- 11 月 9 日：中間報告会
- 12 月 8 日：出前科学教室実施

・　1 月 28 日：事後検討会（振り返り）

理科教育コース 1 年生 18 名が，物理・化学・生物・地学の 4 つのグループに分かれ，ブースを出展することとした。児童は 4 つの班に分かれ，5 時限目と 6 時限目で物理・化学・生物・地学の全分野のブースを体験できるものとし，そのため各ブースでの体験学習内容は 20 分以内で必ず終わるものとした。7 月のガイダンス後は基本的に各分野の大学教員のもとでグループごとに予備実験等の準備を重ねた。11 月の中間報告会では理科全員でブース内容の検討と改善を行った。当日の進行は基本的に学生主体で行った。1 月に事後検討会（振り返り）を行い，良かった点や反省点，次年度の 1 年生に申し送ることなどを共有し，一連の活動を終えた。

以下，各グループの振り返りを示す。

物理 G: 磁力の応用

概要：物理分野では，磁石の反発力を応用し車を走らせレースを行う体験型授業を行いました。この題材の目的としては，普段身近にある磁石の特徴を復習してもらうというものでした。また，実際に児童に車を動かしてもらうことにより，磁石の当て方によって反発の仕方が変化するということを自分たちで気づいてもらうという狙いもありました。

当日の流れ

1. 全体の前で磁石の性質の復習をする
2. 児童の前で車を動かすお手本を見せイメージをつかませる
3. 実際にレースをしてもらう
4. 磁石の近づけ方によって，動きが変わることを各々で確認してもらう

児童の感想

・磁石で車を動かすのが難しかった。
・磁石の仕組みを知れた。
・勉強の理科は楽しくないけど，この物理は楽しかった。
・最初期待していなかったけど，やってみると楽しかった。
・大学生の人が優しく教えてくれた。

学生の感想

学生(KN)　今回の出前授業を通して，小学生の探求心の強さを実感することができました。みんな積極的に活動に参加してくれてとてもレースがスムーズにできました。また，レースのコース自体がプラスチック段ボールでできているためとても壊れやすくなっていてそこにも配慮し，みんなが楽しくできるように児童全員が「そんなことしたらあかん」などお互いに注意しあっているのがすごいなと思いました。

学生(NR)　改善点としては，レース形式なのでみんなすごい盛り上がってくれるのはよかったけど指示が通りづらくなり既定の時間をオーバーしてしまうことがありました。指示が通りづらい状況は怪我の可能性が上がるので今後授業をする際は児童の状況や周りの環境に気を付けたいなと思いました。

学生(YY)　なにより児童に楽しんでもらえたことがとても良かったですが，少し小学生には難しいゲーム性だったので，さらに事前からデモンストレーションを重ね，小学生でもより簡単に行えるゲーム性を考えるべきだったなと感じました。

化学 G: ペンのインクは何色でできているのだろう？

概要：化学分野では，紙と様々なペンを用いて児童たちに簡易的なペーパークロマトグラフィーを行ってもらうことで，児童に実験を体験してもらった。家庭でもできる簡単な材料で実験に触れることで，化学に対して難しいイメージをなくし，身近で面白いものであると感じてほしいと考えた。

当日の流れ

1. 児童たちに 6 グループに分かれてもらう。
2. 印刷したスライドで実験の目的，手順を説明する。
3. グループごとの紙とペンを配布し，説明した手順

どおりの準備を進めてもらう。

4. 実験の経過を観察してもらい，ワークシートに記入してもらう。

5. 結果から考察，まとめを全体で確認する。

実験内容：色を付ける部分にしるしをつけた長方形に切ったろ紙，水の入ったプラコップを用意しておく。児童にろ紙のしるしの位置へインクで色を付けてもらう。割り箸を用いて高さを調節しながらコップに入れ，ろ紙を観察する。

実験材料：水性ペン・プラスチックコップ・ろ紙・割り箸

児童の感想

・はじめ茶色のペンは茶色のインクだけだと思っていたものが，何色かに分かれるところを理解することができた。

・実際に実験できたことが楽しかった。

・実験によってさまざまなことがわかり，わからなかったことがわかるようになったことが良かった。

・レポートを書くことが楽しかった。

・インクの色によって，配合されている色が違いに気づき，楽しかった。

・初めて知ることが楽しかった。

・みんなの意見を共有することができたのがよかった。

・家でもやりたい。

学生の感想

学生 1(IH)　北立誠小学校での出前授業では，化学の実験を通して，子供達が化学に興味を持ち，理解を深められるよう心がけました。特に，色の変化など視覚的に捉えやすい実験を行うことで，楽しみながら学べる授業を意識しました。また，全員に実験を体験してもらうことで，主体的に取り組む姿が多く見られ，化学の面白さを実感してもらえたと感じました。

学生 2(OS)　小学生の予想しない反応があって，難しかった。一人一人の反応を拾いながら，面白いと思ってもらうのが難しかった。予想しない反応を面白がれる余裕が必要やなと思った。1 時間ぐらいやったけど疲労感がありました。毎日 1 人であの大勢を相手するのむずいなと思ったから，小学校の先生は全

体を見渡せて授業を成立させていてすごいなと思いました。刺激が大きい時間だったと思います。

学生３(KA)　児童が気づいたことをワークシートに書き進めることができたのはとても良かった。また，意見共有の時間によって，違う結果や違う考えに触れることができるように設定できたのがよかった。実験内容の説明を同時に行うためには，手順をまとめたものを用意するとよかったなと感じた。

学生 4(SH)　まず，子どもたちが実験の結果を見て「なぜこうなったんだろう？」と驚き，疑問を持って考えてくれたのがうれしかった。時間が限られる中で説明，実験，考察を詰め込んだが，もっと説明や実験をスムーズに行い，考察の時間を多く取りたかった。実験が終わった後，家でもやりたいと言ってくれた子がいて，ろ紙を配ったがとても意欲的だと思った。

学生５(MI)　子どもたちに実験の説明を行い，実験してもらったところ，私たちの想定していない失敗や状況があった。その中でなるべく一人一人に対応して困る人がいないように接することができた。また，私たちの説明や実験過程を子どもたちが楽しみながら取り組んでいる様子を感じることができてとてもうれしく感じた。

生物 G: たねの冒険

概要：生物分野では植物の種子の中でも，落下の様子に特徴のあるものの３点を学生が，２点を生徒自身が落下させ，それぞれの様子を観察してもらった。この題材にした目的は，身近な植物でありながら，児童があまり意識してこなかった種子の形や飛び方を観察・体験することで，植物が子孫を残すためにどのような工夫をしているのかに気付かせることで

あった。また，実際に種子を飛ばしたり落としたりする活動を通して，予想と結果を比べながら考える経験を大切にし，児童自身が疑問をもって探究する態度を育てることをねらいとした。

当日の流れ

1. 知っている植物やそのイメージについて聞く。
2. アルソミトラ，ふたばがき，スラッシュマツの種子が飛ぶ様子を見せる。
3. 種子の形で動く植物があることを元に導入を進める。種子の実物を見せ，その植物の概要と実験の手順(種子を投げ上げ，落下の様子を観察すること)を説明する。
4. 種子の実物を見せ，その植物の概要と実験の手順（種子を投げ上げ，落下の様子を観察すること）を説明する。
5. 子供たちにニワウルシ，トウカエデで実験を行ってもらう。
6. 種子の形や飛び方の違いから，植物の生態や環境への適応について考える。

児童の感想

・たねを観察してどうして面白い飛び方をするのか，どこがどんなふうに工夫されているのかを見つけるのが面白かった。
・観察したりすると今までなんとなーくわかっていたことがはっきりわかるようになったり色々なことがわかったりした。
・たねは綺麗な飛び方をすることを知った。
・みんなで勝負したのが楽しかった。
・植物のたねは生きているとわかった。
・実物を実際に落とせて嬉しかった。
・道とかで生き物を見つけたら落として落ち方を見てみたくなった。

学生の感想

学生 1(HO)　最初は児童が興味をもって話を聞いてくれるか不安だったが，指示に従って動いてくれたり，片づけを手伝ってくれたりと，想像以上に主体的に動いてくれて，子供の好奇心や意欲の高さに気づかされた。たねの落下の様子を夢中になって観察する子供たちの姿を見て，生物分野を楽しみながら学べる授業ができてよかったと思った。

学生 2(YK)　授業を通して，子どもたちが実際にたねに触れ飛ばして確かめることで，自分なりの疑問をもってくれている様子が印象的だった。最初は「飛ぶ・飛ばない」といった見方だったが，活動が進むにつれて落ち方や回り方の違いに気づき，理由を考えようとする姿が見られた。体験を通した学びが，子どもの思考を深めることを実感した。

学生 3(YK)　授業を通して，自分が思っていた小学生の姿と実際の小学生の姿が想像していた以上に違っていたので驚いた。とくに，自分が思っていた以上にみんな元気で，初めて会った私たちにも積極的に関わりにきてくれたことに驚いた。教員になった際も，このように子供たちが興味を持って取り組める授業をしたいと思った。

学生 4(HY)　子どもたちが，想像していた以上に種に興味を持ってくれて，また積極的に活動に取り組んでくれて嬉しかった。疑問や感想などを自分たちに言ってきてくれて，コミュニケーションも図れたので良かった。

地学 G: 化石の観察

概要:地学分野では，小学 5 年生で習う「流れる水の働き」を活用して，一志という山の中でなぜ貝の化石が見つかるのかを考え，化石の観察によって当時の海の様子やその後の大地の変化について知ってもらった。また，三重県津市でとれた化石を実際に触り，形や模様，大きさの違いなどをじっくり観察してもらうことで，写真や映像だけでは分かりにくい化石の質感や重さを体感させ，より具体的に昔の生き物の姿を想像できるようにした。

この題材にした理由としては，小学校 6 年生で化石について学ぶので，そのための導入部分として実際に化石に触れ，興味をもってもらうという狙いが

あった。

当日の流れ

1. 紙芝居形式で化石にまつわるクイズを解いてもらう
2. 化石についての説明をする
3. 三重県でとれた化石を実際に触り，以下の 4 つの点について観察してもらう。

①岩から貝の化石を発見
②みられる貝の特徴
③地層の粒の大きさや手触り
④なぜ標高 100m 地点で貝の化石がとれるのか

4. まとめとして観察④についての解説をする

児童の感想

・化石の現物に驚いた。
・どこからとってきたんだろう？と思った。
・本物の化石を実際に触れたり，見たりするのが嬉しかった。
・砂が時間が流れるにつれ固まっていくことが分かった。
・沢山の種類の化石があってすごいと思った。
・貝は海にしかないと思っていたが，山でとれることが分かった。
・山で化石がとれた理由もよく分かった。
・説明が詳しくて分かりやすかった。
・どんな化石があるのか探すのが楽しかった。
・発表に使った絵が上手だった。
・何をすればよいのか分かりやすかった。
・貝の様々な感触が楽しかった。
・クイズしながら学べて楽しかった。
・化石の名前を知れたのが嬉しかった。

学生の感想

学生 1 (HM)　化石について自分自身もあまり触れたことがなかったので，授業を考える中で化石の成り立ちについても考えることができました。当日は緊張したけど，始まる前から子供たちが興味をもって近くに走ってきてくれてとても嬉しかったです。少し難しい課題を出しても，友達と話し合い積極的に考えてくれる姿からは自分も学ぶものがありました。

学生 2（AK）　今回が子どもの前で授業をする初めての経験だったが，地学という分野で観察が主な活動のためどのように興味を持ってもらうか構成を工夫するのが大変だった。また，準備の段階では想定していなかった児童の発言に対する対応が難しかった。どれほど準備したとしてもその場その場で臨機応変に対応する能力が必要なことを改めて再確認できる良い機会だった。

学生 3（KM）　今回の出前授業は，子どもたちの行動を予測することができなかった部分もあり，その場で臨機応変に対応する場面が多かったので，子どもたちと接することの大変さを実感すると同時に，これを毎日のようにおこなっている先生方のすごさを改めて再確認することができた。なので，このような臨機応変に対応できる力を今後の活動で身につけていきたいと思った。

学生 4（MM）　私は初めて出前授業というものを経験しました。子どもたちと触れ合うことでコミュニケーションはとても大事であることを再確認できました。また，先生が子どもたちに声を掛けている場面を身近に見ることもできました。子どもたちが写真にある化石だと楽しそうに貝の化石を観察してくれている様子をみてとてもうれしく思いました。

学生 5（YS）　児童に「わかりやすい」「面白い」と感じてもらえるような説明や内容を考えるのが難しかったが，どうしたらいいのか班や先生と相談することで，少しずつ内容がよくなっていくのを感じられたのがよかったことだと感じている。児童が楽しそうに観察しているのを見て準備してきてよかったと感じた。しかし，児童とのかかわり方・話し方などが自分にとっての課題だと感じた。

２．情報教育

本年度，情報教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 一身田小学校（対象：1 年生 1 限×3 クラス）における「繰り返し処理プログラミング」の授業・演習
2. 一身田小学校（対象：2 年生 1 限×2 クラス）における「イベント処理プログラミング」の授業・演習
3. 一身田小学校（対象：3 年生 1 限×2 クラス）における「メッセージ通信プログラミング」の授業・演習
4. 一身田小学校（対象：4 年生 1 限×2 クラス）における「凸五角形で平面充填を描くプログラミング」の授業・演習

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

1. 一身田小学校（対象：1 年生 1 限×3 クラス）における「繰り返し処理プログラミング」の授業・演習

（山守一徳）

【目的】　2025 年 11 月 19 日 1・2・3 限目に 1 年生の 3 クラスを対象に，プログラミングの第一歩を知ることを目的とし，ScrachJr を使って，キャラクターを移動させるプログラミングの授業実践を行った。

図 1　繰り返し処理の動作画面例

【概要と成果，課題】　図 1 のように，右に 5 行き，上にジャンプする動きを 4 回繰り返すプログラムを作らせた。3 つキャラクターを並べ同じ動きをさせた。最初のキャラクターは，先生の画面を見ながら，一緒に操作してプログラムを作り，2 つ目のキャラクターは，好きなキャラクターを選ばせて，同じプログラムを児童に自分で作らせた。さらに時間が余ってくる児童には，3 つ目のキャラクターを選ばせて，同じプログラムを作らせた。

このプログラムは，1 年前の新 1 年生にも作らせたが，今回はお絵描き作業をしなかった。

今回は，時間を持て余した時には，キャラクターの大きさが変わるブロックを挿入させた。4 回繰り返す中に，キャラクターの大きさが徐々に小さくなっていくことをさせ，最後にキャラクターの大きさが元に戻るブロックを入れさせた。

1 年前と比べると，タブレットの操作に児童や先生が慣れてきていると思われた。

実施日	時間	場所	学生
11 月 19 日(木)	8:50-9:35	一身田小学校	なし
11 月 19 日(木)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
11 月 19 日(木)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

2.　一身田小学校(対象:2 年生 1 限×2 クラス)における「イベント処理プログラミング」の授業・演習

(山守一徳)

【目的】　12 月 3 日 2・3 限目に 2 年生の 2 クラスを対象にプログラミングの経験を増やすことを目的に，イベント処理を題材にし，ScratchJr 使って，キャラクターがサッカーゴールに向かってボールを蹴るプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】　図 2 のように，スタート時に猫が 1 右に動き，ボールは 1 秒待って 10 右に動くことで，猫が蹴ったように見せた。サッカーゴールがボールに触れたら，「ゴール！」と吹き出し表示し，ボールがサッカーゴールに触れたら 1 右に行き 3 左に行くようにした。

物に触れたら動きが変わるというイベント処理を経験させようとし，サッカーゴールがボールに触れたらという条件と，ボールがサッカーゴールに触れたらという条件を使用した。ボールの動きが，サッカーゴールの中に入り，その後，サッカーゴールから左に出て来るという動きをすることで，ゴールと発するのが 1 回だけにしている。ボールがサッカーゴールに触れたままになるのを防ぐため，最後にボールをゴールから左へ出している。

(a)動作画面とボールのプログラム

(b)猫のプログラム

(c)サッカーゴールのプログラム

図 2　イベント処理の動作画面例

このプログラムは，1 年前の 2 年生にも作らせたが，今回は，「ゴール！」と吹き出し表示するブロックに続いて音を鳴らすブロックを入れさせ，ボールがサッカーゴールに触れたら 1 右に行き 3 左に行くプログラムを作る前に，何度も「ゴール！」と吹き出し表示され音が鳴ってしまうことを確かめさせた。また，猫のプログラムは最後に作らせ，猫がボールを蹴ったように見せかけるテクニックを教えるのは最後に行った。

何度も「ゴール！」と吹き出し表示され音が鳴ってしまうのは何故かを児童に考えさせたが，理解できたのは，ボールがサッカーゴールに触れたら 1 右に行き 3 左に行くプログラムを作らせた後からであった。

プログラムを作らせる時に，ボールに対してのプログラムと，根に対してのプログラムとサッカーゴールに対してのプログラムと，作る場所の違いを意識して作らないといけないのであるが，先生の話をしっかりと聞いていない児童がよく間違えていて，隣の児童に教えてもらっていたりした。

実施日	時間	場所	学生
12 月 3 日(水)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
12 月 3 日(水)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

3. 一身田小学校(対象:3 年生 1 限×2 クラス)における「メッセージ通信プログラミング」の授業・演習

(山守一徳)

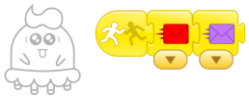
【目的】 7 月 2 日 2・3 限目に 3 年生 2 クラスを対象に，少し高度なプログラムを経験させることを目的として，メッセージ通信を題材にし，ScratchJr 使って，2 人のキャラクターがサッカーボールをパスし合うプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】 図 3 のように，ボールがキャラクターに触れたら向きを変えて動き，ボールが行き来するようにした。

キャラクターがボールに触れたらメッセージを発信するように，ボールはメッセージが届いたら向きを変えるようにすることで，ボールを行き来させている。

このプログラムは，1 年前の 3 年生にも作らせたが，今回は，メッセージの手紙の色は先生と同じものを選ばせた。また，右側のキャラクターを児童に自由に選ばせたが，左側のキャラクターとは同じキャラクターを選ばせないように注意した。さらに，今回は，左のキャラクターのプログラムと，サッカーボールの青色の手紙を受け取った時のプログラムは，児童に考えさせて自分で作らせることを行った。 先生が児童に見せながら作るのは，サッカーボールの紫色の手紙を受け取った時のプログラムと赤い手紙を受け取った時のプログラムと緑の旗の最初に動き出すプログラム，そして，右のキャラクターのプログラムである。残りは児童に考えさせたが，なんとか時間が掛かって完成させていた。

(a)動作画面とボールのプログラム



(b)右のキャラクターのプログラム

(c)左のキャラクターのプログラム

図 3 メッセージ通信の動作画面例

3 年生になると，近隣の児童のプログラムを見せてもらいに行くとか活発な動きになるので，できた児童が現れると，そのプログラムが広まっていくことが起き，ほぼ全員が完成できていくことになる。問題は正解のプログラムを教えてもらった児童が理解できているかどうかであるが，試行錯誤させ時間を掛けさせることが理解に繋がると思われる。何かを作ろうという意欲を持たせること，そして試行錯誤させ，自分で操作させることが今後の成長に必要なことである。

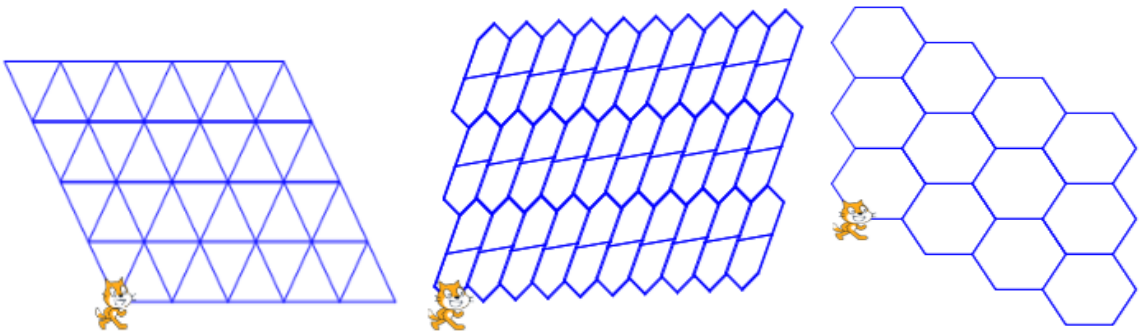
実施日	時間	場所	学生
7 月 2 日(水)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
7 月 2 日(水)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

4. 一身田小学校(対象:4 年生 1 限×2 クラス)における「凸五角形で平面充填を描くプログラミング」の授業・演習

(山守一徳)

【目的】 11 月 13 日 2・3 限目に 4 年生 2 クラスを対象に，プログラミングの構築の仕方を理解させることを目的として，Scratch 使って，凸五角形で平面充填を描くプログラミングの授業実践を行った。

【概要と成果，課題】 図 4 に描かせた平面充填の図形を示す。



(a)最初に取り組みさせた図　(b)完成図　(c)さらに挑戦させた図

図 4　描かせた平面充填の図形

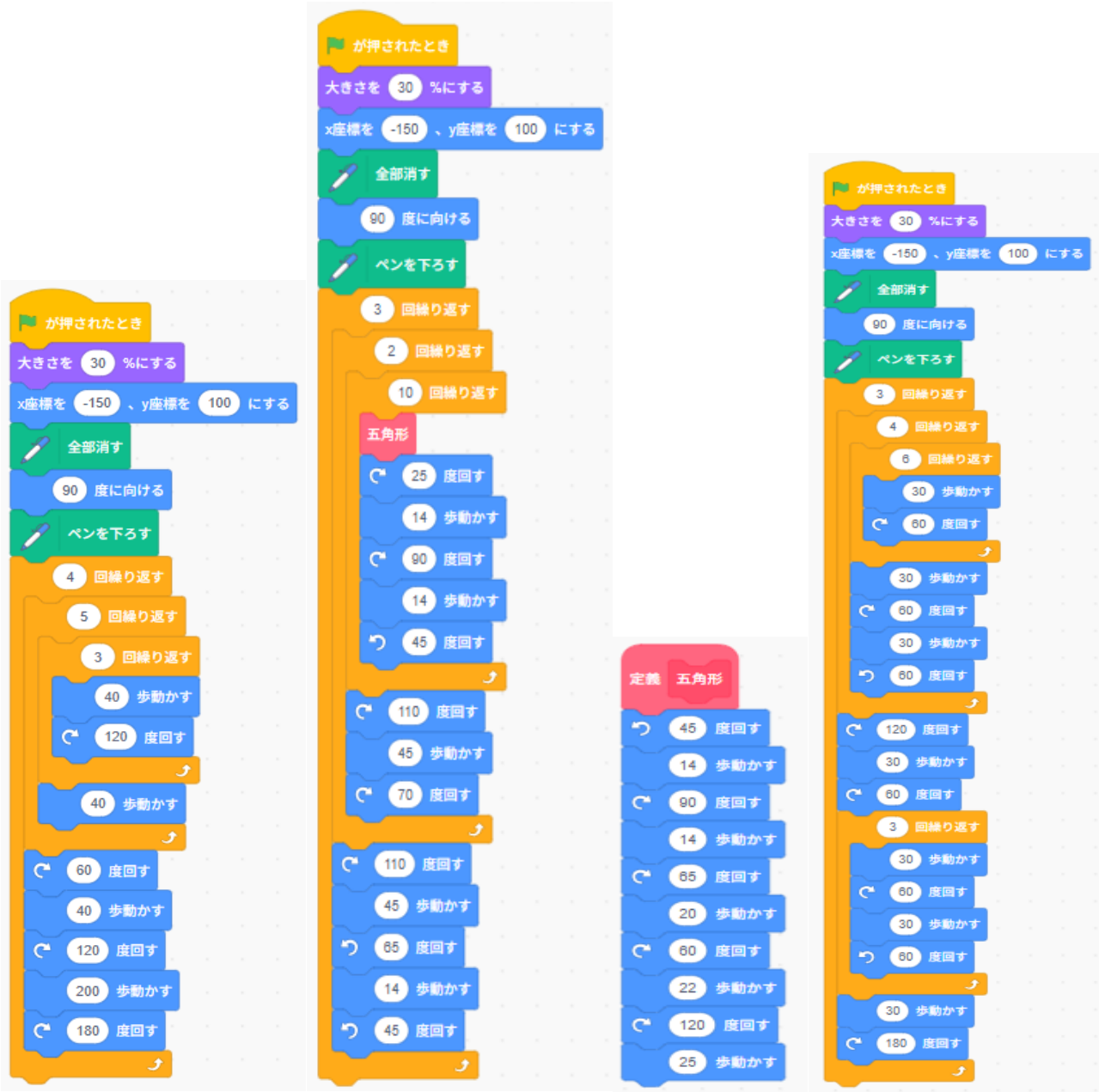
図 4(a)は，授業の最初に先生の操作を見せながら，ゆっくりと一緒になって児童に操作させて描かせた図形である。図 4(b)は，五角形を描く途中までは，先生の操作を見せながら，一緒になって児童に操作させて，途中から完成プログラムを見ながら，児童に描かせた図形である。図 4(c)は，(b)の図形を作成できてしまった児童が，完成プログラムを見ながら，児童に描かせた図形である。

図 5 に，作らせたプログラムを示す。

図 4(b)を描かせた時は，図 5 の(b)と(c)の両方のプログラムを作成させている。図 5 の(a)(b)(d)の先頭部分は，同じブロックの並びにしてあり，繰り返しのブロックが 3 重になっている箇所からブロックの並びが異なってくる。図 4(b)と(c)を描かせる時には，児童はこの図 5 のプログラムの絵を見ながら，ブロックを並べていくことを行う。図 5(c)の定義ブロックを使う時には，先生が操作する手順を児童に見せながら，一緒になって児童に操作させた。

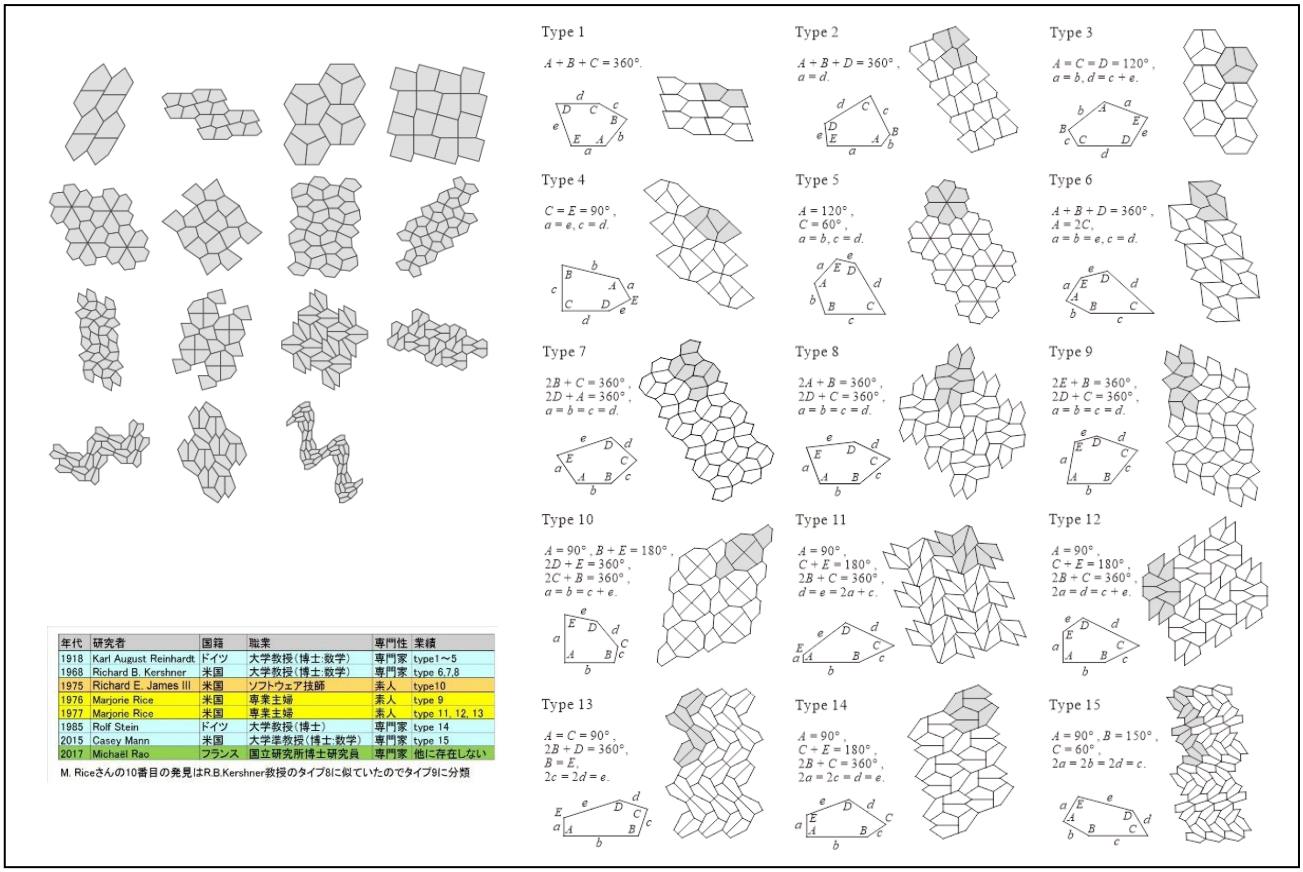
正多角形で，平面充填できる図形は，正三角形，正方形，正六角形であり，正五角形では平面充填することができない。しかし，正五角形でなく凸五角形ならば，平面充填することができ，その図形の種類は，15 タイプしかないことが 2017 年になって証明され，タイプ 9，11，12，13 は専業主婦によって発見されるという興味深い話が存在する。児童にその点を授業で説明し，興味を持たせることを行った。そのために図 6 の資料を児童に配布した。

平面充填のプログラムは，繰り返しのプログラムが基本であり，繰り返しの始まる前の準備，繰り返しの中の最後に位置する次の繰り返しに備えた準備の部分が重要である。準備部分のプログラムが理解できると繰り返しのプログラムが理解できるようになる。平面充填では，基本図形を描く部分から横隣りの基本図形を描くまでの準備部分があり，さらに，下段に移動して下段の基本図形を描くまでの準備部分があるので，大変勉強になる題材である。図形描画は，プログラムをミスすると描く図形が壊れていくので，何故壊れていくのかを目で追うことができ，プログラムのミスに気付きやすい題材でもある。



(a)正三角形平面充填　(b)凸五角形平面充填　(c)凸五角形　(d)正六角形平面充填

図５　作らせたプログラム



年代	研究者	国籍	職業	専門性	業績
1918	Karl August Reinhardt	ドイツ	大学教授(博士:数学)	専門家	type1～5
1968	Richard B. Kershner	米国	大学教授(博士:数学)	専門家	type 6,7,8
1975	Richard E. James III	米国	ソフトウェア技師	素人	type10
1976	Marjorie Rice	米国	専業主婦	素人	type 9
1977	Marjorie Rice	米国	専業主婦	素人	type 11, 12, 13
1985	Rolf Stein	ドイツ	大学教授(博士)	専門家	type 14
2015	Casey Mann	米国	大学準教授(博士:数学)	専門家	type 15
2017	Michael Rao	フランス	国立研究所博士研究員	専門家	他に存在しない

M. Riceさんの10番目の発見はR.B.Kershner教授のタイプ8に似ていたのでタイプ9に分類

図６　配布した資料

授業では，正六角形を描く図 4(c)の図形を描くことができた児童は，ほとんどいなかったが，挑戦している児童はある程度存在し，45 分の授業では時間切れになって終わっていた。ただし，プログラムの印刷物は児童に配布したので，授業後のいつかに完成させていたかもしれない。図 4(b)の図形は，全員が完成させていた。間違い易かったのは，回転する向きが右回転，左回転の２種のブロックがあるがそれを取り違えることであった。

実施日	時間	場所	学生
11 月 13 日(木)	9:40-10:25	一身田小学校	なし
11 月 13 日(木)	10:45-11:30	一身田小学校	なし

３．家政教育講座

本年度、家政講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1.　一身田小学校、栗真小学校、白塚小学校、南立誠小学校、橋北中学校での家庭科の被服実習の補助
2.　南立誠小学校での生活科の調理補助および一身田小学校での家庭科での調理実習の補助
3.　一身田小学校、橋北中学校での家庭科の授業参観

以下に担当した大学教員による活動報告をまとめて示す。

1. 一身田小学校、栗真小学校、白塚小学校、南立誠小学校、橋北中学校での家庭科の被服
2. 南立誠小学校での生活科の調理補助および一身田小学校での家庭科の調理実習の補助

（活動担当者：平島円）

【目的】

家政教育コースで開講している教育実地研究では，一身田・橋北校区連携校の小・中学校の家庭科における実習補助を行うことにより，学生の子ども理解，教材研究，指導力向上を目指している。また，教育実地研究の履修者以外にも広くボランティアを募り，家庭科の授業についての知識の習得のため，活動を行っている。

【概要】

１．授業科目名

教育実地研究（通年集中）

指導教員：平島円

２．実施日

被服実習補助

白塚小学校６年生

６月１７，２８日

西が丘小学校５年生

９月１１，１８，２２，２５日

西が丘小学校６年生

９月３，５，１２日

栗真小学校５年生

１月２７日，２月１０日

栗真小学校６年生

９月１２，１９，２２日

一身田小学校５年生

９月９，１１，１６，１８，３０日，

１０月２日，

２月５，１０，１２，

１７，２４，２６日（予定）

南立誠小学校５年生

１月３０日，２月１７日，２０日（予定）

橋北中学校１年生

９月１２，１９，２２，３０日，１０月３日

調理実習補助

一身田小学校５年生

９月１６，１８日，１２月９日，１月１５日

一身田小学校６年生

１１月５，６，７日

南立誠小学校２年生

１２月２，４日

全４２日

３．参加人数および学年

４年生９名，３年生５名，２年生３名

教員１名

延べ　１１９名（予定）

４．活動の内容

家庭科の被服実習の補助は，一身田小学校５年生の手縫いとミシン実習，西が丘小学校５年生と栗真小学校５年生，南立誠小学校５年生のミシン実習でのエプロン制作，白塚小学校６年生，栗真小学校６年生と西が丘小学校６年生のミシン実習でのナップザック制作，橋北中学校１年生の手縫いの授業で行った。また，調理実習の補助は，一身田小学校５年生の野外実習の練習，ご飯とみそ汁の調理および

一身田小学校６年生の野菜のベーコン巻きとちくわの磯辺揚げの調理を行った。さらに，南立誠小学校２年生の生活科の授業で行ったおイモパーティの補助を行った。

【成果と課題】

今年度も，一身田・橋北校区のほとんどの小学校と中学校の家庭科の実習時に声をかけていただき，多くの学生が複数日数で参加できた。また，小学２年生の生活の補助という新しい連携活動もできた。

被服実習の補助が主ではあったが，調理実習の補助も経験できた。さまざまな学校・クラスで，それぞれ雰囲気の違う現場の子どもたちと接する機会を得られること，先生方の家庭科の授業方法を見られることが，連携活動の良い点であり，学生たちは大学の授業では得られない学びの場を得ていた。先生方の授業内容の説明方法や，資料等の掲示方法について見られることは，将来，教員になる学生にとって，様々な場面における対応の仕方を考える機会になった。しかし，家庭科の実習を教員一人で行うことは大変なことであり，学生は自分が教員になったときに，一人で授業できるのか逆に不安になってしまう学生も多かった。先生方の授業方法から学び，また地域の人たちの支援により，より良い授業づくりを自ら考えられるようになってほしい。

【学生の学び】

連携活動を通して，被服実習や調理実習においては，動画の活用や具体的な説明によって，子どもが完成形をイメージしやすくなり，作業がスムーズに進むことが分かった。また，児童生徒同士が教え合い，協力できる環境づくりや，学年・個人の発達段階に応じた指導の工夫が重要であることを学んだ。小学校と中学校ではつまずきの内容や支援の必要性が異なり，学年で一括りにせず，一人ひとりの様子を丁寧に観察することが求められる。成果物だけでなく努力の過程を見取る姿勢や，特別な支援が必要な児童や外国へのかかわりがある児童への配慮，設備トラブルへの対応，時間管理の重要性も考えることが出来た。これらの学びを，将来の教員生活に生かしていきたい。（担当学生名：KM）

実習補助を通して，同じ授業内容でも学校，クラス，担当教員により様々な進め方や工夫があることを学んだ。参加する中で今日の授業で到達すべきゴールやミシンの待ち時間にすることを示したり，子ども達がルールを決めたりなどメインとなる授業内容以外の点もよく考える必要があることに気付いた。教員の立場になった際には，自らの指導の軸を持ちながら，そのクラスに合った授業の進め方を柔軟に考えていけるようになりたい。

（担当学生名：NM）

実習補助に参加することで，実際の授業での子どもや教師の様子を把握することができた。普段の大学の授業では子どもがいない状態で授業を考えたりするため，実際の子どもの実態が分からないことが多いが，様々な学校に行くことによって具体的な様子や場面を想像しながら今後の授業設計などに取り組んでいけると感じた。また，実習補助では自分が想像するよりも子どもがつまずいていたり，反対にできていたりする場面もあり，子どもを理解するうえで学びになった。（担当学生名：MN）

実際に補助をする立場に立って子どもたちを見たことで，子どもがつまずきやすい点や，声かけをするべき点について学ぶことができた。教師として授業を行う場合には，一人で同時に全員を見ることは難しい中でも，適切に子どもの活動をサポートできるように，子どものつまずきを予想しながら進めることが大切だと考えた。また，学年によって必要な指導は異なるため，子どもの発達段階に応じた授業準備や授業の工夫を考えていくことが必要だと学んだ。（担当学生名：KT）

被服実習や調理実習の授業では班ごとで進度の差が大きく異なるので時間内に作業を終わらせるための手立てを取る必要があると改めて感じた。教員が全ての子どもを見ることができる訳ではないので声かけだけでなく，ホワイトボードに注意書きをしたり，タブレットで作り方の動画を見ることができるようにしたりするなど，様々な工夫を行っていくことを大切にしたいと思った。また，子どもがどのようなことを苦手としているのか，つまずきをその都度，確認しながら置いてかれる子どもがいないように授業をしていきたい。（担当学生名：NM）

連携活動を通して，様々な学校・学年・クラスの子どもたちの様子を見ることができた。学校によって雰囲気が全く違うのはもちろん，同じ学校だとしても学年やクラスによってこんなにも違うのだということに驚いた。それぞれのクラスに応じた指導の工夫がされているのを見て，目の前の子どもたちのことを把握した上で授業をすることの大切さを実感した。この学びを活かして，教員になった際にはクラスごとの特性を踏まえ，授業をしていきたいと思った。（担当学生名:MT）

小・中学校の実習補助を通して，個々の進度に応じた教師の支援の必要性について学ぶことができた。実習では，同じ作業であっても児童生徒によって理解度やつまずく点が異なり，一斉指導だけでは対応が難しい場面が多く見られた。そのため，子どもの様子を丁寧に観察し，必要に応じて声かけや具体的な示し方を変えることの重要性を実感した。また，発達段階や経験の差を踏まえた教材研究や説明の工夫により，子どもが安心して取り組める，意欲をもって取り組める環境づくりができると学んだ。

（担当学生名：KY）

家庭科の実習補助を通して，クラスによって子どもたちの能力に差があり，授業進度が異なると知ったため，子どもたちのレベルにあわせた授業や個別への対応がとても重要であると考えた。また，子どもが自ら考えて行動できるよう板書や声掛けを工夫することで，より子どもたち同士で助け合い，自分たちの力でやり遂げようとする姿勢が見られたため，困っている子一人一人に教えながらも，子どもたちが主体的に実習を行える環境も大切であると考えた。

（担当学生名：YK）

小学校・中学校での実習補助を通して，特に小学校段階では，子どもの実態に応じた支援や環境づくりの重要性を強く感じた。被服実習や調理実習では，ICT を活用した手順確認や児童同士の教え合いによって，主体的に学ぶ姿が多く見られた一方，安全面では教師による丁寧な声かけが不可欠であると実感した。また，学年が上がるにつれて，子どもが自分で気づき，修正しながら作業を進める力が育っていくことを中学校の授業から学んだ。これらの経験を通して，発達段階の違いを踏まえ，一人ひとりの様子を見取りながら支援することの大切さを学んだ。今後の実習や教員生活に生かしていきたい。

（担当学生名：HM）

教育実地研究を通して，いろいろな津市内の学校の授業補助に参加することができた。低学年と高学年の違い，小学生と中学生に気づくことができた。（低学年は作業の流れを全て板書する，中学生はあまり質問してこないなど）同じ教科，内容でも授業準備，進め方，子どもとの関わり方に違いがあることに気づいた。自分の受け持つ生徒に応じて，臨機応変に対応する力が求められると感じた。この教育実地研究で学んだことを実際の教育現場でいかしていきたい。（担当学生名:RM）

3. 一身田小学校，橋北中学校での家庭科の授業参観

（活動担当者：平島円）

【目的】

１年生対象の共通教育の授業であるキャリア教育入門の家政教育コースで行う授業では，教職に就く自分のキャリアの方向性を認識し，その実現に向け具体的な行動に移すことができるようになることと，学校現場の学習に参加し，「児童・生徒に寄り添う力」や「教科の指導について考える力」を，実践と振り返りを通して身につけることを目的としている。学生の子ども理解，子どもの発達段階の学び，家庭科の授業の理解を目指し，一身田・橋北校区連携校の小・中学校の家庭科を参観した。

【概要】

１．授業科目名

キャリア教育入門（通年集中）

指導教員：平島円

２．実施日

一身田小学校５年生の家庭科の授業参観

９月９，１１，１６，１８，３０日

橋北中学校１年生の家庭科の授業参観

９月１２，１９，２６日，１０月６日

全９日

３．参加人数および学年

１年生１３名，教員１名

延べ　１４名

４．活動の内容

一身田小学校５年生と橋北中学校１年生の家庭科の被服実習の授業を参観し，小学生と中学生の授業への取り組み方や技能の違いなどを観察した。また，現場の先生の授業の工夫，それを補助する上述した上級生の動きなどを見ながら，自分のキャリアについて考える。

【成果と課題】

今年度初めての取り組みとして，同時期に小学校と中学校の家庭科の授業を１年生に参観させた。学生たちは小学生と中学生の授業中の態度や先生への反応，家庭科の技能の違いについて，理解することができた。そこから，自分に合った校種を考えることができたようであった。また，家庭科の先生が楽しそうに授業をされるのを見て，教員という職業を良い印象でとらえた学生もいた。

今回は小学校と中学校それぞれ１校ずつであったことから，さまざまな小学生と中学生を見たというところまではいかなかったことが課題ではあるが，学生の小学生と中学生の違い，発達段階の理解には大いに役立った。

４．英語教育講座

本年度，英語教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 北立誠小学校での外国語科における言語活動

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

１．北立誠小学校での外国語科における言語活動

（担当：荒尾浩子）

【目的】小学校６年１組と２組の外国語科授業内で自分の気持ちを大切にしながら，相手の気持ちも考えて伝えるアサーティブな言い方を知り，実際に英語で自分の考えや気持ちを表現できるようにすることを目的とした授業実践を行った。

【概要】2025 年 11 月 27 日に北立誠小学校６年生２クラスを対象に英語教育コース 4 年生 14 人の学生が教職実践演習の授業の一環として外国語科での言語活動を行った。導入では,「伝える名人になろう！」という学習目標を提示し，コミュニケーションには複数の伝え方のタイプがあることに気付かせるため，引っ込み思案型，攻撃型，アサーティブ型の３種類のスキットを学生が演じて示した。児童はそれぞれのやり取りを観察し，どの表現が相手の気持ちを尊重しつつ自分の思いも伝えられているかをペアで話し合い，全体で意見を共有した。

次に，非主張的・攻撃的・アサーティブという３つのコミュニケーションタイプの特徴について,「自分も相手も大切にする伝え方」とは何かを整理した。

活動場面では,「レストランで注文を間違えられた」という身近で具体的な状況を設定し，児童は，客の立場としてどのように店員に伝えると丁寧で分かりやすいかを個人で考え,「Excuse me.」「Could you change it, please?」などの表現を手掛かりにしながらワークシートに記入した。その後，4～5 人のグループで意見交換を行い,「最初に声をかける」「間違いを具体的に伝える」「相手への配慮の言葉を添える」といった伝え方のポイントを日本語で整理した。

学生は各グループを巡回し，児童の発言を基に，実際に使える簡単な英語表現へと言い換えて提示した。児童はペアでロールプレイングを行い，客役と店員役に分かれて実際のやり取りを体験した。発表後には,「どの言い方が丁寧だったか」「相手の気持ちを考えた表現になっていたか」といった観点で全体共有を行い，表現の良さを具体的に評価した。

【成果と課題】

英語でアサーティブトレーニングを行うという難易度が高い言語活動だったか，児童は自分なりに考え思いの伝え方を工夫する様子があった。内容の充実と，英語学習の質を保つのが課題である。

【学生の感想】

アサーション理解のため，最初のスキットを日本語で行ったが，表情やジェスチャーでニュアンスが伝わるため，むしろ英語で行う方がよかったのではないかと思った。子どもたちが聞かせた英語を完璧に理解する必要はないことを学んだ。シンプルな英語表現がまだまだできていない部分があったので，いかにシンプルに表現できるか，言いかえできるかを考えていきたい。

本実践の機会をご提供下さった北立誠小学校の先生方ならびに関係者の皆様に，心より感謝申し上げます。

５．幼児教育

本年度，幼児教育講座で実施した取り組みは以下の通りである。

1. 南立誠幼稚園における「未就園児の会」
2. 附属幼稚園における「未就園児の会　コアラの会」
3. 附属幼稚園における「よるのようちえん」
4. 附属幼稚園における「ペープサート劇の公演」
5. 附属幼稚園における「親子活動」
6. 附属特別支援学校小学部における「みんなであそぼうの時間」

以下に担当した大学教員による活動報告を示す。

１．南立誠幼稚園における「未就園児の会」

（担当者：水津幸恵）

【目的】

幼稚園における未就園児の会を運営することを通して，子育て支援事業や就園前の子どもおよび親子についての理解を深める。未就園児が楽しめる遊びや活動を，園の先生方や地域のボランティアの方と相談・振り返りを繰り返しながら継続して計画・実践することを通して，実践力を養う。

【概要】

幼稚園が子育て支援の一環として実施する「未就園児の会」の計画・実践を 1 年間行った。実施メンバーは，園長，民生委員，地域ボランティアの方，幼児教育コース 4 年生 6 名であった。幼児教育コースの学生は，授業「教育実地研究」として，活動内容の計画と実践に取り組んだ。活動内容は下記の表の通りである。

回	月　日	テーマ
1	5 月 22 日	親子で遊ぼう
2	6 月 12 日	さわってみよう
3	10 月 23 日	音を楽しもう
4	11 月 6 日	新聞紙と遊ぼう
5	11 月 20 日	風船となかよくなろう
6	12 月 4 日	みんなであったまろう
7	12 月 18 日	つくってみよう
8	1 月 29 日	ありがとう！またね

各回とも，自由遊び 30 分，全体活動を 30 分の計 1 時間程度行った。自由遊びでは，季節や育ち，興味関心に応じて制作コーナーや感触遊びを準備するなどした。全体活動では，手遊び，ふれあい遊び，絵本や紙芝居などを実践した。活動終了後は，園長，民生委員，地域ボランティアの方と毎回振り返りを行い，次回の活動の改善につなげた。

【成果と課題】

学生たちは，毎回の活動と子どもの姿についての振り返りを生かして計画と実践に取り組んでいた。また，毎月エピソード記録を作成し，かかわりや活動について振り返りを行う中で，次回は保護者の方にも積極的にかかわろう，子どもの育ちに応じた活動を考えよう，と課題意識をもって取り組む姿勢がうかがえた。

1 年を通して，自分たちで活動を計画し実践することで，学生同士で連携して活動を進めていく力を養うとともに，子どもの 1 年を通した育ちを実感する経験になったようである。園長先生をはじめ，民生委員，地域ボランティアの方々から温かいフォローやご助言をいただく中で，様々な活動をやってみようと挑戦したり，次回の実践をよりよくするための具体的な手立てを考えたりすることができ，実践力を養っていくことにつながったと考える。

（担当学生：幼児教育コース 4 年生 6 名）

２．附属幼稚園における「未就園児の会　コアラの会」

（担当者：富田昌平）

【目的】

附属幼稚園の未就園児の会「コアラの会」に参加し，子ども・子育てについての理解を深めるとともに，保育実践（絵本，紙芝居，手遊び，ふれあい遊び，劇，歌，ダンスなど）に関する基本的な知識と技能を身に付ける。また，保護者支援について体験的に学ぶ。

【概要】

2 年後期授業「子どもの理解と援助」「子育て支援」の一環として，附属幼稚園の未就園児の会「コアラの会」に企画・運営スタッフとして参加した。参加日は 10/2，10/16，10/30，11/13，11/27，12/18，1/29，2/5 の全 8 回である。

コアラの会がない日は学内で前回実践のふりかえりを行い，それをもとに次回に向けて実践の計画・準備・練習を行った。

10/2	見学・参加
10/16	見学・参加
10/30	ふれあい遊び「やさいジュース」 遊び歌「1 ぴきおばけ」 紙芝居「ハロウィンのかくれんぼ」
11/13	手遊び「どんぐりころころ」 手遊び「まつぼっくり」 ふれあい遊び「バスにのって」 紙芝居「まるいものな～んだ」
11/27	手遊び「パン屋さんにお買い物」 ふれあい遊び「たき火」 ダンス「おふろやさんにいこう！」 絵本　「もりのおふろ」
12/18	手遊び「とんとんとんひげじいさん」 （通常 ver.とクリスマス ver.） ダンス「ジングルベル」 人形劇「クリスマスのふしぎなはこ」
1/29	手遊び「まめまき」 ダンス「鬼のパンツ」 ふれあい遊び「しんぶんにんじゃ」 紙芝居「まめまきまかせて！」
2/5	ふれあい遊び「幸せなら手をたたこう」 ダンス「ロケットペンギン」 パネルシアター「コアラくんとケーキを作ろう」

【成果と課題】

学生たちは，最初は戸惑いや緊張が多く見られたが，子どもや保護者との距離の取り方やコミュニケーションの仕方を自分なりに探るうちに次第に打ち解け，子ども・発達についての理解，子どもへの援助の仕方，保護者との関係の作り方を学んでいった。以下は学生の声である。

「最初は緊張していたのもあるし，どう話しかけたらいいか，最初の言葉が分からなくて，子どもたちと関わるのに時間がかかったけど，会を重ねるごとに少しずつコアラの子の顔と名前，そのお母さんの顔などを覚えていって，話しかけることができるようになりました。クリスマス会の時には，お母さんが発表のあとに「すごかったです」と褒めてくれて，とても嬉しかったです。自分たちが一生懸命考えて，準備してきたダンスを私たちの見本を見ながら一緒に踊ってくれたり，読み聞かせを真剣に楽しそうに聞いてくれたり，劇を真剣に見てくれたり，嬉しくて楽しい思い出でいっぱいです。頑張って準備したからこそ，その分達成感を感じることができました。」

（担当学生：幼児教育コース 2 年生 11 名）

３．附属幼稚園における「よるのようちえん」

（担当者：富田昌平）

【目的】

幼稚園の夕涼み会での遊びのコーナーを計画・準備・実践する経験を通して，幼児教育・保育現場の一端と子どもの姿を知る。4 年間の幼児教育・保育の学修，あるいは将来の幼児教育・保育分野への進路に向けての意欲と行動につなげる。

【概要】

1 年前期授業「キャリア教育入門」の一環として，附属幼稚園で 7 月に実施されている「よるのようちえん」での遊びのコーナーの企画・運営を行った。3，4，5 歳児が楽しめる遊びのコーナーについて話し合い，アイデアを出し合った。附属幼稚園の先生とも相談し，最終的に次の 3 つのコーナーを設定した。

実施日は 7 月 19 日（土）で，当日は 2 年生 11 名もサポーターとして参加した。

消防士になろう	消防士になりきって，火の的に向かって水のボールを投げる遊び。投げる楽しさや的を倒す達成感を味わう。
ワニワニパニック	次々と出てくるワニをハンマーで倒す遊び。夢中になって遊ぶことの楽しさや満足感を味わう。
でんでんだいこをつくろう	紙皿，ペットボトルのふた，割り箸を使ってでんでんだいこをつくる。玩具を作る楽しさと表現する喜びを味わう。

【成果と課題】

まだまだ課題は多いものの，子どもの発達や個人差などを考慮しながら遊び方やかかわり方，進め方などを工夫することができた。また，遊ぶ子どもの姿を見ながら子ども理解を深めることができた。以下は学生の声である。

「大変なことはたくさんありましたが，それ以上にうれしかったことがありました。それは，子どもたちが終わった後に「楽しかった！」「もう一回やりたい！」と言ってくれたり，「2 回目来た！」と言ってもう一回来てくれたことです。私は，子どもたちが火を倒したときに「かっこいい！」「すごい！」と声をかけたり，ゲームが終わった後に「すごいね，大成功だったね！」「かっこいい消防士さんだったよ！」とほめたりすることを心掛けていました。すると子どもたちはうれしそうな表情を見せてくれたので，こちらまで自然とうれしくなりました。先生の声かけの大切さを改めて感じた機会になりました。」

（担当学生：幼児教育コース 1 年生 11 名）

４．附属幼稚園でのペープサート劇の公演

（担当者：吉田真理子）

【目的】

乳幼児期の子どもに向けて学生自身が実際に演劇を実施することを通して，言語的・造形的・音楽的表現に対する視座を高め，子どもの表現理解に役立てることを目的とした。またその際，題材となる絵本や昔話などの児童文化に関する知識を深めるとともに，子どもの反応を通して子どもの感性に触れることもねらいとした。

【概要】

<u>１　授業科目名</u>

前期：表現IA，表現IＢ

後期：表現IIＢ

<u>２　受講者数及び学年</u>

前期と後期ともに，幼児教育コースの 3 年生 11 名が受講した。

<u>３　公演時期，学生の担当時間数</u>

(1) 前期 7 月 19 日（土）

グリム童話の絵本『ブレーメンの音楽隊』を題材に，週に 1 コマで半年間取り組んだ。

(2) 後期 1 月 21 日（水）

日本の民話の絵本『てんぐのはうちわ』を題材に，週に 2 コマで半年間取り組んだ。

4　活動の内容

それぞれの題材となる絵本をもとに，各自の役割（①脚本班，②制作班，③音楽班，④演技（声と動き），⑤照明，⑥黒子　※役割は重複あり）を決め，劇づくりに取り組んだ。なお，音楽に関しては，音楽教育講座の小畑真梨子氏にも指導を仰いだ。

当日までの活動内容として，①脚本では，劇に合うように，絵本のセリフや場面を考え直すとともに，キャラクターの構成が引き立つような工夫をした。②制作では，段ボールなどの身近なものや廃材をできるだけ使いながら，登場人物や背景を制作した。③音楽では，ドアやふすまの音などの効果音や，場面の雰囲気に合った音楽や暗転時の挿入歌などを考え，可能な限り実際の楽器を生で演奏できるよう準備した。④声や動きの配役を決め，当日までに登場人物のキャラクターや感情をふまえながら，声の抑揚などの言語表現や動きの身体的表現を練習した。⑤場面に合わせながら効果的な照明の使い方を考えた。⑥学生の感性やアイデアを引き出せるように，教員は最低限の指導にとどめ，グループでの話し合いを促した。

【成果と課題】

前期の『ブレーメンの音楽隊』に関しては，本講座でも過去に演じたことのある演目であったが，基本的な構成や演出や学生たち自身が考案した。それぞれの動物の個性や関係の深まりや，ハラハラする場面などを演出することが難しかったようであるが，物語の内容を深く考えたり，音楽や照明などの道具を工夫することによって，子どもたちにとって見ごたえのある内容になった。

後期の『てんぐのはうちわ』に関しては，早々にアウトラインは完成したものの，山場となる鼻が伸びる場面がスムーズにいかないことが悩みであり，附属幼稚園で実演したときも十分とはいえなかったが，その経験を活かして，他の園ではより達成度の高いものを完成させることができた。前期の経験を活かして，後期は自分たちでオリジナルの表現方法を生み出すことが多く，特に宴会がはじまるシーンは圧巻であった。

これらの経験を通して，学生は互いの信頼を高め，仲が深まっていた。皆で 1 つのものを作り上げることを通して，協力的な態度や思いやり，そして主体性などが育まれたように思う。

（担当学生：幼児教育コース 3 年生 11 名）

５．附属幼稚園における「３歳児親子活動」

（担当者：水津幸恵）

【目的】

附属幼稚園における 3 歳児親子活動の内容を計画・実践することを通して，保育実践に関する基本的な知識と技能を身に着ける。2 年次後期の附属幼稚園での未就園児の会「コアラの会」での経験をもとに，3 年次 9 月の幼稚園実習を見据えて，学生間で意見を出し合い，幼稚園の先生方に助言をいただきながら，協力して実践を行うことを経験する。

【概要】

2025 年 6 月 5 日（木）に，附属幼稚園 3 歳児クラスにおいて，親子で触れ合って遊べる活動を計画・実践した。幼児教育コースの 3 年生 11 名は，授業「幼児教育学」の一環として，活動の計画と実践に取り組んだ。当日の活動内容は以下の通りである。

ねらい：バスタオルの肌触りを感じながら，ゆったりと親子でのふれあいを楽しむ。	
時間	活動の流れ
10：30 10：40	○かえるのたいそう ○ふわりんと動物園に行こう ・ボートのように引っ張り合う

	・わらべうた「上から下から」等 ・バスタオルを用いて，パンダ，カンガルーをイメージした動きを楽しむ。 ・トンネル遊び
11：10	○大型絵本『どうぞのいす』
11：20	終了

活動内容としては，かえるのたいそうを親子で行った後，バスタオルを「ふわりん」として紹介し，一緒に動物園に遊びに行くというイメージの中で，バスタオルを親子で引っ張り合ったり，仰ぎ合ったり，くるんだり，トンネルにしてその下をくぐったりと，さまざまな動きを楽しんだ。最後に大型絵本の読み聞かせを行った。

【成果と課題】

バスタオルという素材を用いて親子が楽しめる活動を考えることを通して，教材研究の大切さを実感したようであった。また，3 歳児がその面白さに出会って楽しめるような提案の仕方や進め方を工夫し，「動物園に行く」というストーリーを考えた上で，それを子どもたちが思い浮かべることができるように視覚教材を作成するなど，事前準備と練習を丁寧に行った。当日は，子どもたちもイメージの中で自然と身体が動き，バスタオルを用いたさまざまな動きを楽しむ様子が見られ，準備してきたことの手応えを感じられる経験になったようであった。

（担当学生：幼児教育コース 3 年生 11 名）

６．附属特別支援学校小学部における「みんなであそぼうの時間」

（担当者：富田昌平）

【目的】

特別な支援を必要とする子どもやそのための環境及び支援についての理解を深めるとともに，実際に実践を行うことで実践力を高める。

【概要】

4 年後期授業「教職実践演習」の一環として，附属特別支援学校小学部との連携授業を行った。実施日は 12 月 17 日（水）であり，「みんなであそぼうの時間」に行った。

自己紹介を行い，リズム運動「げんきにげんきに」に参加した後，①集団遊び「旗上げ」，②集団遊び「色タッチゲーム」，③感触遊び「新聞で遊ぼう」の 3 つを行った。授業後には 30 分ほど教室内と授業の様子を見学させてもらった。

【成果と課題】

教育・保育の現場で専門職として働く前に，特別な支援を必要とする子どもの姿を間近に見て，その発達を後押しするための実践のあり方や工夫・配慮について具体的に学ぶことができたのは収穫であった。以下は学生の声である。

「今回の特別支援学校での活動を通して，子ども一人ひとりの反応や一人ひとりへの関わり方が多様であることを改めて実感した。幼稚園や保育園での活動では，ある程度同じ動きを一斉に楽しむ姿を見ることが多かったが，今回の活動では同じ活動であっても参加の仕方や楽しみ方がそれぞれ異なっていて，その子なりの関わり方を大切にする必要があるのだと感じた。今後，保育現場で活動を進める際には，全員が同じことをできるようにすることを目標とするのではなく，それぞれの子どもが自分なりに活動に参加し楽しむことができているかという視点で活動を見ることが大切であると学んだ。活動によっては，その視点で捉えることが難しい場合もあるかもしれないが，子どもの姿を丁寧に見ることで，その子なりの参加の仕方や楽しみ方に気付くことができると感じた。」

（担当学生：幼児教育コース 4 年生 11 名）

６．西が丘小学校

本年度，西が丘小学校で実施した取り組みは以下の通りである。

１．家庭科　ミシンにトライ（５年）
２．理科　大地のつくりと変化「津市の地質と化石」（６年）
３．他者との協調的スキルを育成するための授業づくり支援（２年）

以下に活動報告を示す。

１．家庭科　ミシンにトライ（５年）

（担当：５年　竹内友美）

【目的】

ミシンを使って，エプロンの製作をすることができる。

【概要】

５年生の４学級に１６時間支援に入っていただいた。ミシンによる縫い方の支援を子どもたちのすぐそばまで行って，支援していただいたことで安全に学習することができた。

【成果と課題】

学生に縫い方を教えてもらったり補助をしてもらったりすることで活動がスムーズに進んだ。ミシンの使用は，学校の授業のみでミシンに慣れていない児童が多いため，個別の支援が必要な児童が多くいる。ミシンが止まったり，糸がなくなったりしたときに学生の方に助けてもらうことで，子どもたちが待つことなく意欲的に取り組むことができた。同じ学生の方が何度か授業に積極的に参加してくれたことで，子どもたちの関係作りにもつながった。

さらに，下糸のボビンの補充やもつれた糸をほどく作業を手伝ってもらったことで，教員側の支援にもなった。

２．理科　大地のつくりと変化「津市の地質と化石」（６年）

（担当：６年　井ノ口絢子）

【目的】

津市美里町で採取した一志層群の化石の観察や地域の写真を通して，大地のつくりやできかたに興味を持つことができる。

【概要】

一志層群大井層の化石をグループで観察し，化石から分かったことや気づいたこと，疑問などを発表した。児童の発表をもとに化石には様々なものがあることやその化石がどのように出来てきたかなどを丁寧に教えてもらった。

【成果と課題】

地域の地層や化石について，直接見る機会は少なく，実際に津市で採取した化石を見て触ることで様々な発見をし，単元で学習した事をさらに深めることが出来た。

また，今回３人の学生の方にお世話になったがメインで進行した学生の方は，西が丘小の教育実習生であったため，実習生にとっても教育実習で学んだことを生かすことができたのではないかと考える。

３．他者との協調的スキルを育成するための授業づくり支援（２年）

（担当：２年　横田　幸大）

【目的】

子どもたち同士の関係を基盤とした授業づくりについて学ぶ。

【概要】

低学年部（２年生）の公開提案授業に関わっていただいた。具体的には，上記の目的を達成するための授業づくり支援，および提案授業後に助言をいただいた。

【成果と課題】

成果としては上記のような授業を行うためには，子どもたち同士の関係が基盤となるため，「明るく楽しいクラス」から「安心して学べるクラス」へと転換することの大切さを学ぶ機会となった。具体的に，「安心して学べるクラス」とは，「弱さ」を真ん中においた「さりげない」つながりがあるクラスであり，「聴く（相手から引き出す，相手を察する）－聞いてもらう（相手に助けを求める），相手が思わず助けたくなる」の関係が築かれているクラスである。今後の課題としては，引き続き各教科の授業を通して，そのような関係づくりに取り組んでいきたい。

7．附属中学校

本年度，附属中学校で実施した取り組みは以下の通りである。

１．三重大学キャンパスにて教育学部附属中学校の校外学習を実施

以下に活動報告を示す。

１．教育学部附属中学校の校外学習

（附属中学校　若林　努）

12 月 5 日（金），教育学部附属中学校 2 年生（132 人）が，三重大学へ校外学習に訪れました。生徒たちは，施設見学をしたり，大学の先生の講義を受けたり，大学生になった気持ちで，1 日，貴重な体験を行いました。

午前中は，教育学部の大学生 9 人が，生徒たちにキャンパス内の施設を案内しました。案内のお陰で，生徒たちは広いキャンパスを迷わずに歩くことができました。附属図書館では，司書が，蔵書の種類や冊数，利用人数，利用の仕方など館内の説明をしました。書架が可動式であることや，専門書の多さに生徒たちは驚いていました。数理・データサイエンス館では，ドローン操作をしたり，VR 体験で世界旅行をしたり，最新の技術に触れることができました。三翠会館では，展示されているパネル写真や資料などから三重大学の歴史を知ることができました。

昼食は，生協第一食堂で食べました。メニューは，「ライス，みそ汁，ねぎ塩ハンバーグ」「ライス，みそ汁，桜姫鶏デミチーズメンチ」のどちらかで，生徒たちは，「ハンバーグお願いします」「メンチです」など，大学生になった気分で注文して受け取り，出来立ての温かい昼食を，おいしくいただきました。

午後は，大学生から，大学についての話を聞きました。三重大学の紹介，日々の授業や研究のこと，論文作成のこと，サークルのことなど，楽しいことや大変なことなどの話を聞き，生徒たちは大学生のキャンパスライフを具体的に，身近にイメージすることができました。

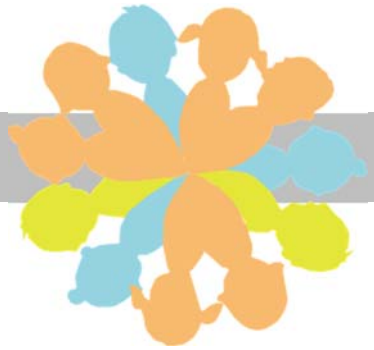
次に，教育学部の先生の授業を体験しました。幼児教育，理科教育，音楽教育，社会科教育，学校教育など，開講された 10 講座の中から，2 講座の授業を受けました。

生徒たちは，時間が経つのを忘れて，熱心に講義に参加していました。「難しかったけど楽しかった。」「とても充実していた。」など，皆，学ぶことの魅力を再認識することができました。

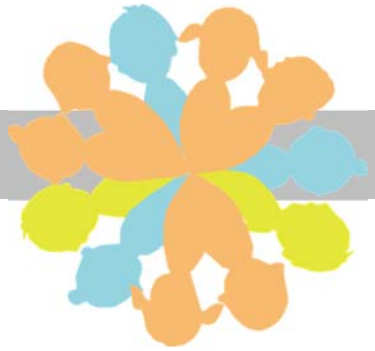
集合後，三翠会館へ向かうところ。いいお天気で，今日 1 日への期待感も高まりました。

大学生から三重大学の紹介をしてもらっているところです。

第2部
学生の声



Ⅰ　連携活動に参加して



連携活動に参加して

本年度，地域連携活動に参加した「学生の声」は以下の通りである。

○　国語教育コース

・N.K.さん

附属幼稚園にて，年長園児 20 名を対象に書道体験活動を行った。国語教育コース書道ゼミナール生 9 名で指導し，筆と墨を使って楽しむことを目的とした。初めての経験だという園児が多く，力の入れ方で線の太さが変わることに驚く姿が見られた。文字や絵を自由に表現し，最終的にはカレンダーに作品を仕上げた。活動後は，楽しかったと笑顔で話しており，幼児期に肯定的な経験を積むことで，小学校で書写を学ぶ際の抵抗感や苦手意識の軽減に繋がることが期待される。

・K.N.さん

特別支援学校の高等部２年生８名に対し，教員１名，学生５名，そして特別支援学校の先生方にもご協力いただき，書道の体験活動を行った。大きな筆を使って大きな紙に好きな文字を書くという活動がメインで，「極道」「天下」などのユニークな単語や，自分の名前に入っている漢字など，それぞれが個性あふれる文字を選び，５枚程度書いた。大きな筆を使うのは今回が初めてという生徒がほとんどであったが，ダイナミックに筆を動かし，大きな筆を使って表現することの面白さを感じている様子が見られた。

○　数学教育コース

・O.A.さん

教職実践演習で，地域の中学校で数学の授業での学習支援を行いました。中には，机に伏せて授業に向き合えていない生徒がいました。そのたびに，私は「叱るべきなのか」ということを悩みました。その際，先生方からのアドバイスをもとに，「まずは声をかける」ということが重要だと教わりました。しかし，時には，生徒を指導する際，ルールが守られない場面などでは，叱ることも必要です。その一方で，生徒をほめるということも極めて大切だということも学びました。

○　理科教育コース

・H.I.さん

出前科学教室では，実験を通して生徒自身に考えさせることを意識しながら，理科の楽しさを伝える活動を行いました。特に，色や状態の変化など，視覚的に分かりやすい現象は生徒の関心を強く引くことが分かり，その点を伝えようと各班が工夫して取り組んでいました。また，生徒一人一人の理解度や反応に目を向け，声かけや説明を工夫するなど，寄り添った関わりを各班が丁寧に行っていたと感じました。本活動を通して，体験を通じて学ぶ理科教育の重要性を改めて学ぶことができました。

○　音楽教育コース

・T.M.さん

私は中学校で合唱の授業を支援した。その際，専門的な言葉ではなく，生徒に分かりやすい言葉で説明することの大切さを学んだ。歌うことに抵抗がある様子だったため，まずは安心して声を出せる雰囲気づくりを心掛けた。次第に自ら質問する姿も見られ，意欲の高まりを感じた。一方で，高音の響かせ方を十分に言葉で伝えられなかった反省もある。今後はつまずきを予想し，具体的に指導ができるように準備して授業に臨みたい。

○　美術教育コース

・D.M.さん

５年生２クラスを対象に，図工の電動糸鋸を使った活動の支援を行った。児童の様子として気づいたこととして，糸鋸の使い方は端切れで練習すれば感覚的に理解できたこと，筆を使わないで絵の具を塗

る表現に自信を持っている児童がいたこと，掃除を頑張ることができる児童がいたことがあげられる。あらためて，自分自身の実践に活かせそうなこととして，機具の使用方法を児童が理解できる表現で説明することができたことが挙げられる。安全に気を付けて作業をする経験を積むことができた。

○　保健体育コース

・Y.A.さん

今回，小学校の水泳授業に参加して，バディを組ませることの大切さや水中であるため指示が通りにくく，児童たちをまとめることの難しさを感じた。また，見学している児童に対してビート板を運ぶといった役割を与えるなどの働きかけも印象に残り，重要性を感じた。補助の面では上手く浮くことができない児童にポイントを伝えアドバイスをしたり，実際に腰を支えたりするなど積極的に関わることができた。顔を付けるのに少し抵抗を持つ子どもたちに対しては，水中ジャンケンを促したり，床タッチを促したりするなど環境的アプローチもできたのではないかと思う。最後にみんなが顔をつけることができとても嬉しかった。

○　家政教育コース

・N.M さん

実習補助を通して，同じ授業内容でも学校，クラス，担当教員により様々な進め方や工夫があることを学んだ。参加する中で今日の授業で到達すべきゴールやミシンの待ち時間にすることを示したり，子ども達がルールを決めたりなどメインとなる授業内容以外の点もよく考える必要があることに気付いた。教員の立場になった際には，自らの指導の軸を持ちながら，そのクラスに合った授業の進め方を柔軟に考えていけるようになりたい。

○　英語教育コース

・N.さん

北立誠小学校での授業実践を通して，授業づくりの難しさと同時に，協働による学びの深さを実感した。事前に子どもたちの実態を想定し，活動の負荷や提示方法を丁寧に検討したことで，授業では大きな混乱なく進めることができた。また，地域の学校と連携し，学生が一人ひとりの考えに寄り添う活動ができたことは，双方にとって意義のある学びであった。本実践の機会を快く提供してくださった北立誠小学校の先生方と児童の皆さんに心より感謝したい。

○　幼児教育コース

・Y. M.さん

一年間を通じて参加させていただいた南立誠幼稚園の未就園児の会では，より幼い子どもが安心して楽しむことができる活動や環境づくりはもちろん，一緒に参加してくださっている保護者の方の思い出にも残るような実践を考えました。長い期間を通して子どもと関われたことで，毎月すくすくと成長していく様子を実感し，その感動を保護者の方と共有しながら，子どもの発達に柔軟に対応できる支援について学ぶことができました。

II 学生アンケート結果

令和 7(2025)年度地域連携活動　学生アンケート結果

質問 1．学年を教えてください。(94 件の回答)

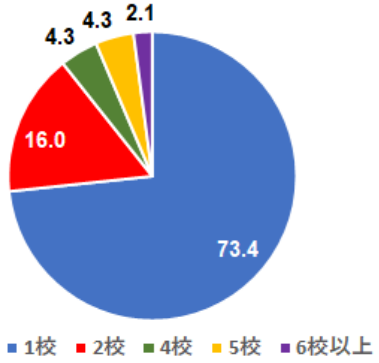
学年	人数	割合（%）
学部 1 年生	28 名	29.8
学部 2 年生	5 名	5.3
学部 3 年生	19 名	20.2
学部 4 年生	40 名	42.6
院生	2 名	2.1

質問 2．所属コースを教えてください。(94 件の回答)

所属コース	人数
家政教育コース	20 名
理科教育コース	19 名
英語教育コース	11 名
保健体育コース	9 名
音楽教育コース	9 名
数学教育コース	8 名
美術教育コース	7 名
国語教育コース	5 名
幼児教育コース	3 名
社会科教育コース	1 名
学校教育コース	1 名
その他	1 名

質問 3．参加した連携活動先の学校数について教えてください。(94 件の回答)

学校数	人数	割合（%）
1 校	69 名	73.4
2 校	15 名	16.0
3 校	0 名	0
4 校	4 名	4.3
5 校	4 名	4.3
6 校以上	2 名	2.1



質問 4．参加した学校名を教えてください。（複数回答可）

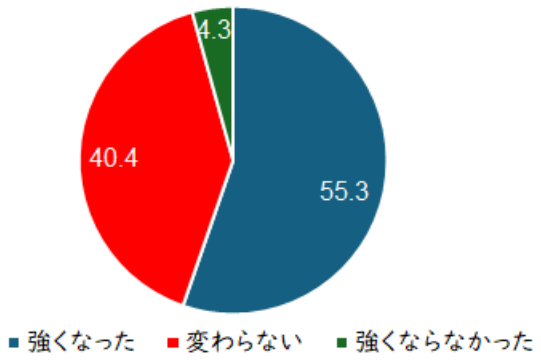
学校名	人数
北立誠小学校	30 名
一身田小学校	23 名
南立誠小学校	11 名
西が丘小学校	7 名
栗真小学校	7 名
白塚小学校	1 名
三重大学附属小学校	3 名
橋北中学校	17 名
一身田中学校	8 名
三重大学附属中学校	5 名
南立誠幼稚園	12 名
三重大学附属幼稚園	5 名
三重大学附属特別支援学校	2 名

質問 5．上記の学校の連携活動に参加しようと思ったきっかけや動機についてもっともよく当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

きっかけや動機	人数
授業の一環で参加	84 名
自分から参加	6 名
友人や先輩からの紹介で参加	1 名
その他	8 名

質問 6．今回参加した連携活動を通して教員になりたいと思う気持ちは強くなりましたか？(94 件の回答)

	人数	割合（%）
はい(強くなった)	52 名	55.3
どちらでもない(変わらない)	38 名	40.4
いいえ(強くならなかった)	4 名	4.3



質問 7．今回の経験でどのようなことに関して理解が深まりましたか？(複数回答可)

深まった内容	人数
子どもに対する理解	83 名
授業の仕方	68 名
先生の働き方	53 名
学校組織	6 名

質問 8．上記の「質問７」で「その他」を選択した方は「理解の深まった内容」について具体的に教えてください。（3 件の回答）

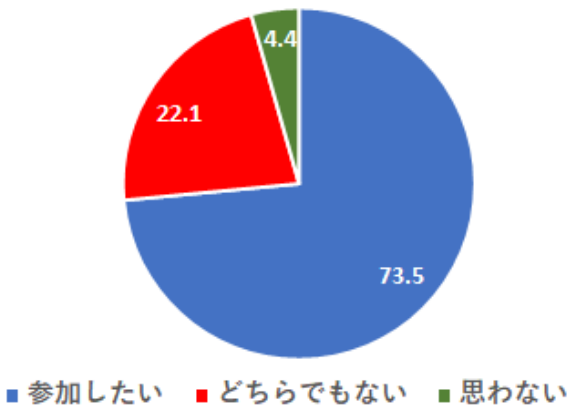
・一身田小学校授業支援で行った電動ノコギリを使う作業の補助を通して，小学生に対しての分かりやすい声掛けの仕方を考えることができた。

・子どもは教師の予想や考えをはるかに超えた想像力を持っております，教師が変わらなければそれらを見落としてしまうこと。

・子どもは 1 時間のなかでも変わるということ。

質問 9．今後も活動に参加したいと思いますか？(今年度 3 月卒業生・修了生を除く 68 件の回答)

今後も活動に参加したいか	人数	割合（%）
参加したい	50 名	73.5
どちらでもない	15 名	22.1
参加したいと思わない	3 名	4.4



質問 10．今後，このような連携活動において，どのような経験をしたいと思いましたか？また要望等があれば教えてください。良かった点および悪かった点なども含めて教えてください。

94 件の回答

良かった点

〈子どもについて学べる〉

- 実際の児童生徒の様子を見ること，知ることができたこと（３件）。
- 実際に子どもたちと関わる経験ができたこと（４件）。
- 授業見学だけでなく，子ども達と話す機会があったこと
- 児童１人のサポートをすることで，その子が何はやろうとするけど，どんな活動だと全くやらないのかを知ることができたこと
- 様々な学年を見学することができ，学びが深まったこと（２件）
- 小学校，クラス，担当教員により授業の雰囲気，進め方などが異なることを体感することができたこと
- 実際の児童と関わる機会がなかなかないので，どういう説明の仕方をすればわかりやすいかを考える機会になったこと
- １年を通して子どもの成長を見続けることができたこと（２件）
- 生徒がつまずいている部分をよく知れたこと
- 家庭科の調理や被服の実習を数多く補助することができたため，子どものつまずきやすい点やどういった点を事前に子どもたちに伝えるべきかなどについて学ぶことができたこと
- 学年やクラスを変えて，音楽の授業を観察，支援したことによって，クラスごとの子どもたちの反応の共通点や相違点を探すことができたこと。鑑賞の授業においては，低・中学年の子どもたちは，リズムに合わせて体を揺らしたり，曲調の変化に合わせて体の動きを変化させたりしていることが多いと気づくことができたこと。「リズムや拍を感じて表現すること」は，子どもたちにとって，楽しく，とっつきやすい活動なのかも知れないと感じ，将来の授業づくりのヒントとしたいと思えたこと

〈授業について学べる〉

- 指導の軸を持ちながら，そのクラスの子どもの様子に合わせていくことの必要性に気付くことができたこと
- 子ども理解や授業の仕方などとても勉強になったこと
- 実際の子どもたちの様子や，先生の授業での工夫を学ぶことができたこと
- 実習補助の立場で子どもを見ることで，子どもがどのような場面でつまずくかや，教師のどのような声かけが必要なのかということを知ることができたこと
- 学年によって必要な指導が異なり，子ども一人一人それぞれの発達段階があるため，子どもに合わせた授業の工夫を考えることも大切であると学べたこと
- 実際の教育現場の様子や家庭科実習での指導の工夫など多くのことを学ぶ機会となったこと
- 少人数で簡易的な授業がすごくいい経験になったこと。普通の授業は一人でもっと多い人数に教えるが，初めからするにはハードルが高いし，難しいと思うけど，今回のようなものの方がもっと気軽で，でも少人数でも子どもたちをまとめて何かを教えるというのができたのでととてもよかった。
- 実際の授業に参加できる点
- 実際の公立の学校で授業できたこと
- 自分で計画を立て，子どもたちの実際の反応を見る経験は，自分の授業力を高めることに繋がると思う
- 観察をするだけではなく，授業の補助に入ることで今の子どもができることや困っていることを知り授業開発にいかせること
- 被服実習や調理実習での授業が参考になったこと

〈先生について学べる〉

・　指導する経験値を得たこと
・　実際の学校現場での授業での子どもの様子や先生の様子を見ることができて将来現場で働く想像がつきやすかったこと。
・　子供と実際に関わりながら，現場の教師の方々がどのように子供と関わっているのかを見ることができたこと
・　先生や先輩の机間指導を参考にしながら，自分もその場で実践できたこと
・　複数の学校での活動を通し学校ごとに異なる雰囲気や組織運営の様子を見ることができたこと
・　様々な学年，授業を見学することができ，小学校教員の幅広い活動を知ることができたこと
・　少人数に対する，簡易的な授業体験は，ハードルが高すぎるわけではないので，教員としての感覚をつかむうえでとても良い経験になったこと。もう少し時間があればよかったなとは思いました。
・　教員の良い面だけでなく，悪い面も知ることができたこと

〈その他〉

・　大学では経験ができないことを学べたこと
・　実際の現場の様子を知ることができたこと
・　自分の専門校種以外の学校で活動を行うことができた点
・　附属小学校や附属中学校以外の地域の学校の子どもたちとかかわることができ，多様な子どもを見たり理解したりする機会に恵まれたこと。
・　実際に現場に行ってみないと分からないことを学ぶことができたこと。今回は複数名でひとつのクラスを担当したが，４月からは一人で見ないといけないため，視野を広く，周りの先生にも助けてもらいながら授業を組み立てたい。
・　保護者の方と関われたこと（２件）
・　四年生と同時に参加する機会があり，先輩の動きを見ながら，児童との接し方を考えることができたこと
・　ミシン実習の補助として参加させていただいて，分からないことがあったときでも先生に聞いたらすぐに助けてくださり，責任を感じながらも気負いすぎず楽しく参加することができたこと

悪かった点・反省点

・　どんな風に動いたら良いのかの指示が少なく着いてから何をしたら良いか分かりにくかったこと
・　もう少し子どもたちと関わる時間を密接に取りたかったこと
・　荒れている学級に入ると，物を投げられて怖い気持ちになったこと
・　初対面でいきなり授業して一回で終わったこと

要望やこれからの活動について

〈授業見学・参加〉

・　授業見学をしたい。
・　クラスでの合唱指導を引き続き経験したい
・　音楽の授業をもっと見学したい
・　１クラスの数学の授業を１単元でもいいので全て続けて見たい
・　授業中の様子だけでなく，休み時間の児童の様子も見てみたい
・　「同じ教科の授業を，クラスを変えて見比べる」活動は，これからも経験してみたい
・　自分の専攻している科目以外にも参加してみたい
・　美術や図工の授業支援の活動に参加したい
・　家庭の授業だけでなくほかの授業の様子も見たい

- 数学の授業だけに関わらず，１日参加午前参加などもしてみたい
- プールの授業など普段の大学の授業では見ることができないので，なかなか見ることができない活動に参加してみたい。体育も実際の授業がどのように進んでいるのか知りたいのもそうだが，他にも家庭の調理実習，音楽なども見てみたい
- 児童と直接関わりながら指導をする経験はとても貴重な経験になったので，今後は水泳のみならず，他の領域や教科でも体験してみたい

〈さまざまな学校での活動・授業経験〉

- 学年を固定化にせず，色々な学年の授業をみる経験もしてみたい
- 色々な学校に参加して多角的な視野を持ちたいです。
- 学校によって違いがあるのか興味を抱きました。
- 主免許以外の校種の活動から多く学ぶことができたので他校種の学校での活動がしたい。
- 現場を身近に経験できるので児童たちに専門分野を教えに行く活動をしたい
- 今後は教育実習に向け見学だけでなく少しだけでも実践的な活動をしたい
- 実際に１クラス分の人数の前で授業を行なってみたい
- 特別支援学級についてもっと知りたい
- 運動会や学習発表会など多種多様な活動に参加してみたい
- できるだけ多くの学校や場所で活動を行いたい
- できるだけ多くの学年に行きたい。低学年，中学年，高学年でまた子どもたちの様子や授業の仕方が変わると思うから。
- 今回行かせていただいた実習先は少人数クラスだったため，クラスの人数が多い授業に参加してみたい。
- 今回は小学校で授業をさせてもらったが，中学校でもこのような授業をさせていただきたい
- 自分は小学校の教員になるが，その前段階である幼児たちと関わることで，発達のステップを幅広い範囲で理解していきたい
- 国際交流，異文化理解などの授業に携わりたい
- 高等学校の連携もあるよい（２件）

〈子どもとの関わり〉

- 特別支援学級の見学に行った際，いきなり授業を任されてしまいかなり戸惑ったので，もっと実際に授業をする経験をしてみたい
- 児童の関心や学ぶ意欲を引き立たせる方法を学びそれを活かす経験がしたい
- 子どもと関わる楽しさを体験したい。
- 子供たちをまとめる経験をしたい
- 今回の活動では授業の見学，と言うのが大きかったが今後はより補助のようなより児童と関わるような経験をしたい。
- 児童生徒に，物事を伝える活動があるような経験をしたい
- 講義だけではなかなか子どもと実際に関わる機会が少ないので，連携活動を通して子どもたちと関わる経験をつめたい
- 子どもたちによる思いがけない行動に対しての対応を経験したいより子どもたちとかかわって，コミュニケーションのしかたや距離感を学びたい
- 今後もこのような連携活動があれば参加したい。このように，実際の学校現場に行って子供たちと関わることができる機会はとても貴重だと思うからです。
- もっと子供の考え方やものの見方を理解できるような体験をしてみたい。子供との交流の機会が増えるとよい
- 子供との関わり方や先生がどのように授業しているのかを自分の目で見ることで学びたい

〈先生方の授業・仕事〉

- 先生方の授業構成や授業の進め方を学びたい
- 実際に先生が授業をしている中で，サポートとして教室に入りたい。今回は学生だけでの授業だったため，正解があまりわからず戸惑ってしまうこともありました。現役の先生がどのような視点で子供を見ているのか参考になるような活動に参加したい
- もう少し長い時間同じ生徒たちに授業をしたい（２件）

- 今回の実践では後半に隔週で行かせていただく機会があり，子どもたちとも保護者の方とも距離を縮めることができた気がしたので，開催の期間を空けすぎずに定期的に関わりたい
- 教師としての児童への声の掛け方がいまいちはっきりわかっていないためそれが学べるような活動がしたい
- 実際に自分が先生となって，準備をするような経験をしたい
- 具体的な指導法や活動を学べたら嬉しい
- 授業準備について実際はどのようにしているかなど知りたい
- 授業以外にも先生は授業準備をどのように進めているのかなど，教師としての働き方の裏側を知りたい
- 連携先の学校の教室の ICT 環境を事前に把握しておけると良いと感じました。パソコンをディスプレイに接続する方法が有線か無線か，有線の場合端子の種類等も聴きによって異なるため。学生側がいかなる状況にも対処できるようにすべきとも思う一方，変換器等も安価では手にはいらないものや常時持ち運びしにくいものもあるため，その点が改善されると良いと感じました。

〈連携活動の方法〉

- 現場の先生方からの意見を活動の前後でいただける機会があると，得られるものがより大きくなると感じた。
- 先生たちと授業について話す時間が欲しい
- 学生同士の連携を高めた上での活動の実施。

学生アンケートのまとめ

地域連携活動において，実際の児童や教員，授業の様子を見たり関わったりすることで学べた点が多く評価された。一方，関わる時間や指示・支援・継続性の不足，現場ごとの違いや安全配慮，事前準備（ICT 含む）・フィードバック体制の改善が求められている。

第3部
津市の先生たちと
76期生が語る会

津市の先生たちと 76 期生が語る会

（担当：地域連携推進委員会）

【目的】

先輩教員である津市教育委員会職員との「語る会」を通して，学生が教職への不安を軽減するとともに，教職に対する自覚を持つようになる。

【概要】

日　時：2025 年 10 月 29 日（水）15：00－17：00

場　所：教育学部専門校舎 1 号館，2 号館

参加者：76 期生（2 年生）204 名

　　津市教育委員会職員約 35 名

　　教育学部教員約 20 名

内　容：前半　教職に対する不安について

　　後半　教職に対する魅力について

日　程：7 月 16 日　第 1 回打ち合わせ

　　8 月 22 日　第 2 回打ち合わせ

　　9 月 26 日　第 3 回打ち合わせ

　　9 月末　　学生事前アンケート

　　10 月 8 日　市教委・学部教員打ち合わせ

　　10 月 29 日　語る会開催

　　10 月末　　学生事後アンケート

【学生の事後アンケート結果】

下記は，事後アンケートの結果の概要である。

問１　語る会についての満足度

＜回答理由抜粋＞

・教職に対する不安について丁寧に答えてくれた

・現場の裏側や教師の実際の姿を知れた

・教材研究や授業準備など，具体的な話を聞けた

・堅苦しくなく，気軽に話せた

・良い会だったからこそ，時間が足りなかった

問２　教職に対する魅力について

＜回答理由抜粋＞

・子どもの成長を見られるところに魅力を感じた

・給料や休暇の制度が整っていると知って安心した

・人間関係で悩んでも相談できる環境だと感じた

・働き方改革が進んでいるとわかって安心した

・先生方が誇りをもって楽しそうに話していた

・もともと魅力は感じていたので

・魅力は感じたが，自分が感じている不安は解消されなかった

・ブラックな面はまだまだ改善されていないため

問３　教職に対する不安について

＜回答理由抜粋＞

・不安な面もあるけど，その壁を乗り越えた先に嬉しいことがあると気づき，自分も頑張りたいと思った
・保護者対応や授業も全てやるのは大変では？と思っていたが，協力してやればいいと知り，気が楽になった
・いじめなどの問題も担任一人で解決するのではなく，チーム全体で取り組むと聞いて安心した
・残業や保護者対応の面での不安があったが，現場の様子を聞けた
・不安なことというのは，自分の場合は必ず起こりうる事象に対してで，苦しいこともあると分かった
・実際の教職の現場では先生方が常に動いている印象があり，やはり骨の折れる仕事だと感じてしまった

問４　会の運営について

＜回答理由抜粋＞

・またこのような機会があればぜひ参加したいです
・授業よりもこの会に参加したい気持ちが強かったので，前半のお話を聞かなかったことが悔しい
・授業の時間とは被らないようにしてほしい
・デメリット・メリットに分けなくても良いと思う労働面，人間関係面など具体的に質問の種類を分けるのが良いと思った
・不安と魅力というパート分けだったが，「魅力・質問・フリー相談」など自由度のある構成がよい
・自由に質問をしあう形で進んだため，とても過ごしやすかった
・小学校での勤務経験がある方がいなかったため，その点の話を聞けなかったのが残念だった
・成功体験やアドバイスではなく，愚痴のような“本音”を聞きたい

【総括及び来年度に向けて】

本年度実施した「津市の先生たちと 76 期生が語る会」は，事後アンケート結果では，参加者の満足度が 97.5%と非常に高く，学生にとって極めて意義深い機会となった。アンケートの自由記述からは，津市の先生方が語った内容そのものだけでなく，不安や質問に対する応答の仕方，さらには教職について語るふるまいそのものから，多くを学んだ様子がうかがえた。内容面では，学習指導や学級指導，生徒指導といった日常の教育実践に加え，保護者対応や同僚性，校内での支え合いの実際など，教職の「現場のリアル」に触れられたことが，学生の教職に対する不安の軽減や魅力の高まりにつながっていた。特に，「一人で抱え込まなくてよい」「チームで子どもを支える」という言葉は，学生に安心感を与えており，教職を具体的にイメージする契機となったと考えられる。

一方で，運営面においては，グルーピングの人数や割り振り方，時間設定の関係で，片方の時間帯にしか参加できなかった学生がいたなどいくつかの課題も明らかになった。中でも「もっと話を聞きたかった」「時間が足りなかった」という声が多く見られたことから，対話の深まりという点では十分でなかった側面もあったといえる。

これらを踏まえ，来年度に向けては，以下について検討したい。第一に，少人数グループによる対話形式の充実である。グループ規模を縮小することで，かしこまらずに率直な対話ができる場づくりを検討したい。第二に，会終了後の学生同士の振り返り・共有の時間の確保である。語る会終了後，20～30 分程度の交流時間を設けることで，グループ間での話題や情報の偏りを緩和するとともに，学びの共有を行いたい。第三に，開催時期・時間帯の再検討である。授業期間中の水曜日午後は授業が重なる学生が一定数存在するため，夏季休業期間中の成績配布や面談等と併せた実施など，より多くの学生が参加可能な日程設定について検討する必要がある。

本語る会は，教職の魅力や厳しさを一方向的に伝える場ではなく，学生と現職教員が同じ場を共有し，問いや不安を出発点に対話をすることそのものに価値があった。来年度はこの成果を活かしつつ，運営方法を改善することで，よりよい相互交流が生まれる場となるように発展させていきたい。

令和７（2025）年度 三重大学教育学部地域連携活動報告書
令和８（2026）年３月発行
編集：三重大学教育学部 地域連携推進委員会
平島円（家政教育講座），小畑真梨子（音楽教育講座），
加納岳拓（保健体育講座），近藤智子（教職実践高度化専攻），
山川恵里香（教職実践高度化専攻），横山真智子（家政教育講座），
山田志穂（教育学部学務担当）
発行：三重大学教育学部
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577